

第47回関東甲信地区医学検査学会 抄録集

メインテーマ **医心伝心**

会 期：平成22年11月27日（土）・28日（日）

会 場：大宮ソニックシティ

（市民ホール・展示場・研修室・会議室）

学 会 長：砂川 進（越谷市立病院）

実行委員長：神山 清志（浦和医師会メディカルセンター）



主 催：関東甲信地区臨床検査技師会

担 当：社団法人埼玉県臨床検査技師会

後 援：埼玉県、さいたま市、埼玉県医師会、埼玉県看護協会

テレ玉、読売新聞さいたま支局、埼玉新聞社

第 47 回関東甲信地区医学検査学会

開催のご挨拶



第 47 回関東甲信地区医学検査学会

学 会 長 砂 川 進

第 47 回関東甲信地区医学検査学会を社団法人埼玉県臨床検査技師会が担当し、大宮ソニックシティで開催するにあたり、担当技師会を代表しまして歓迎のご挨拶を申し上げます。

本学会の開催にあたりまして、ご支援ご協力を賜りました会員、賛助会員および関係各位に厚く御礼申し上げます。

本学会のメインテーマは「医心伝心」としました。以心伝心・・・禅宗の用語で、言葉や文字を用いずに仏法の極意が師から弟子へと伝えられることを意味します。今回の学会テーマは一字もじって「医心伝心」です。医の心を言葉や文字に頼らず伝達する。何か格好良いような響きですが、実際の現場ではそうはいきません。患者様や医療スタッフや仲間に、何をどの様に伝えるのか。針を刺すのだから痛いのは分かるだろう。特殊検査は時間がかかるから今日結果が出ないのは分かり切っているだろう。患者様の苦情にこの様な対応をしていたら医療従事者失格です。私たちの仕事は命を預かるサービス業なのです。一つ一つの仕事(検査)を相手に納得してもらうように説明し、「早く診断が付いてほしい」、「早く良くなってほしい」という私たちの心こそ言葉無くしても伝わるようにしたいものです。

今回は、一般演題が 144 演題、学生演題が 35 演題、コマーシャル演題が 4 演題の合計で 183 演題のポスター発表となり、37 の企画を用意しました。

特別公開講演は鉄ちゃん・鉄子ちゃんにはたまらない、さいたま市に在ります鉄道博物館から松久副館長をお招きし、こちらは「以心電心」と題した講演をお願いしております。私たちが医の心を伝達するならば、鉄道は言葉や文字を介さずにお客様の心を運んでおります。全く関連性のない業界が、安全管理といった線路で結ばれているなんて素晴らしいことだと思いませんか？特別公開講演第 2 弾は、大東文化大学の伊藤機一教授の講演です。自他ともに認めるポッポ屋である先生は全国の鉄道路線をほぼ制覇しております。鉄道に絡んだ逸話や本当のご専門である尿分析について楽しい話が聞けることと思います。また、学術講演は「女性特有の癌対策」として 4 企画、シンポジウム 6 企画、教育セミナー 15 企画、検査機器・試薬展示発表、コーヒープレイクセミナー 3 企画、ランチョンセミナー 6 企画、など盛り沢山の企画を準備いたしました。

各企画の発表・講演時間、会場を確認し、限られた時間を最大限に活用していただければ、参加者にとりまして実りの大きな学会になると確信しています。

また、学会意見交換会では楽しいアトラクションも準備していますので、ご参加をお願いいたします。

末尾になりますが、本日ご参加いただきました会員各位、情勢厳しき折ご協力を賜りました賛助会員をはじめ関係各位にあらためて深謝申し上げます。

第47回関東甲信地区医学検査学会

主催者代表 挨拶



関東甲信地区臨床検査技師会
会 長 宮 島 喜 文

第47回関東甲信地区医学検査学会が社団法人埼玉県臨床検査技師会の担当で大宮ソニックシティを会場にして、『医心伝心』をテーマに開催されることになりました。この学会は関東甲信地区の1都8県を持ち回りで開催されているもので、開催する都県の会員の皆様の創意工夫を活かした企画・運営をお願いしています。

今回は社団法人埼玉県臨床検査技師会の会長である砂川進学会長、神山清志実行委員長を中心に実行委員会を組織し、準備を進めていただきました。開催を迎えるにあたり、学会長を始め、実行委員の皆様のご尽力の賜物と感謝いたします。

今学会では2日間の限られた日程の中で、特別企画では6題の公開・学術講演や各分野での興味深い15題の教育セミナーや臨床検査の現場で関心が高まっている6題のシンポジウムを始め、ポスターによる会員発表など充実した内容となっております。中でも、大宮での開催を記念すべく、“鉄道”をキーワードにした特別公開講演や女性特有のがん対策をテーマにした学術公開講演は検査技師会としての公益性を鑑み企画され、市民の皆様とともに聴講するものとなっております。

また、機器・試薬展示、ランチョンセミナーなどでは話題性のある最新の技術や知見を提供していただく出展各社を始め、賛助会員の皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

さて、現在、日臨技は新公益法人への移行を目指して作業を進めており、その中で、関東甲信地区臨床検査技師会など地区技師会を日臨技の支部としての位置づけを明確にしようとしています。いわゆる“支部化”のことです。実現すると新たな組織体制となり、本学会の主催者や運営も変更になることが予想されます。しかし、地区会員が一堂に会し、臨床検査技師が自らの手で企画し、現在直面している臨床検査を学術、管理運営、教育研修の幅広い領域について学ぶことのできるこの学会の存在価値は変わるものではありません。この学会が誕生した経緯を踏まえるとともに、学会の本質を真摯に捉え、会員の利益に繋がる制度になることを願っております。

この学会が関東甲信地区の会員の皆様にとって、日常の臨床検査業務を通じての課題の解決に繋がる新技術や新たな知識の習得の場であり、また、各県の垣根を越えた会員が相互理解を深める交流の場として有意義な学術集会となることを期待しております。

(平成22年9月30日)

第47回 関東甲信地区医学検査学会抄録集

目次



学会長挨拶	1
関甲信会長挨拶	2
学会場までの交通案内	4
学会場内の案内	5
学会日程表	8
演題発表時間一覧	12
学会へ参加される方へのお知らせ	13

開催地学会長一覧	18
一般・CM演題数	19
特別講演・学術講演・シンポジウム・教育セミナー 司会一覧	20
一般演題座長一覧	21
協賛企業一覧	22

抄録目次

特別講演・学術講演・シンポジウム・教育セミナー・日臨技精度保証事業 伝達研修会	23
一般演題・コマーシャル演題・学生演題	31

抄録本文

特別公開講演	56
学術公開講演	60
学術講演	64
シンポジウム	68
教育セミナー	90
日臨技精度保証事業 伝達研修会	115
コマーシャル演題	117
一般演題	120
学生演題	192

コーヒーブレイク・ランチョンセミナー案内	210
----------------------	-----

コーヒーブレイクセミナー抄録	211
----------------	-----

実行委員・実務委員名簿	220
-------------	-----

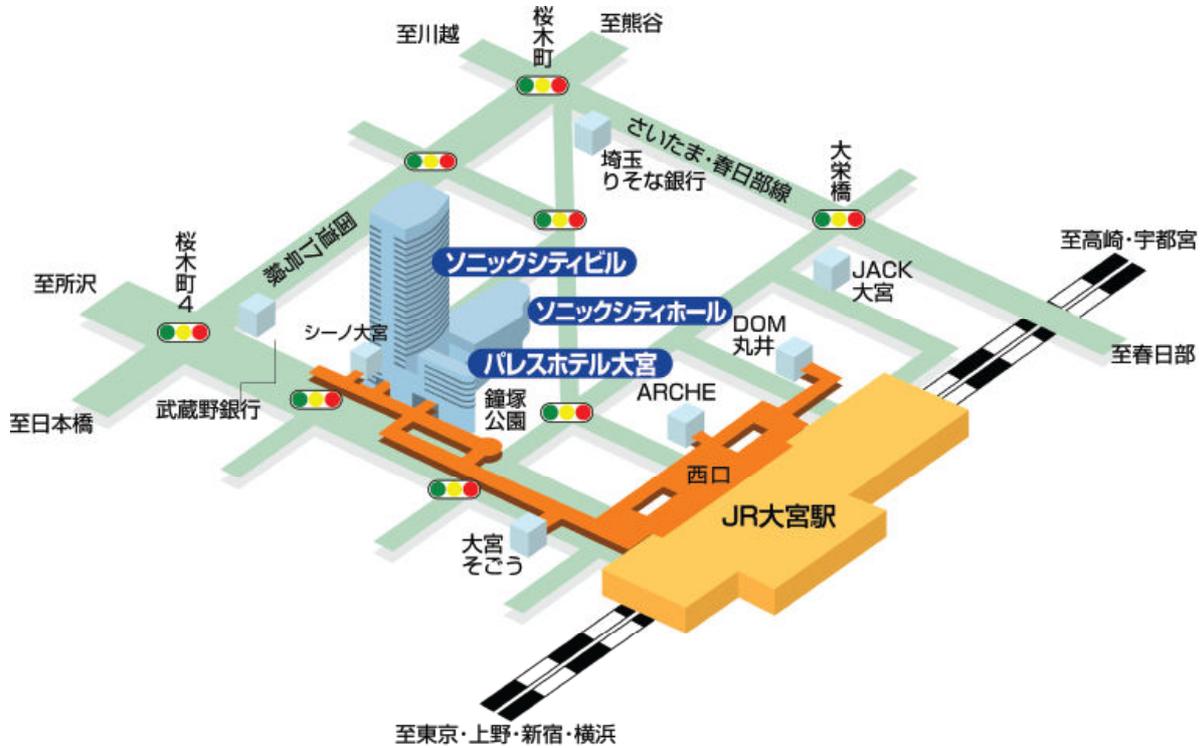
ランチョンセミナー抄録	214
-------------	-----

《キャラクター説明》

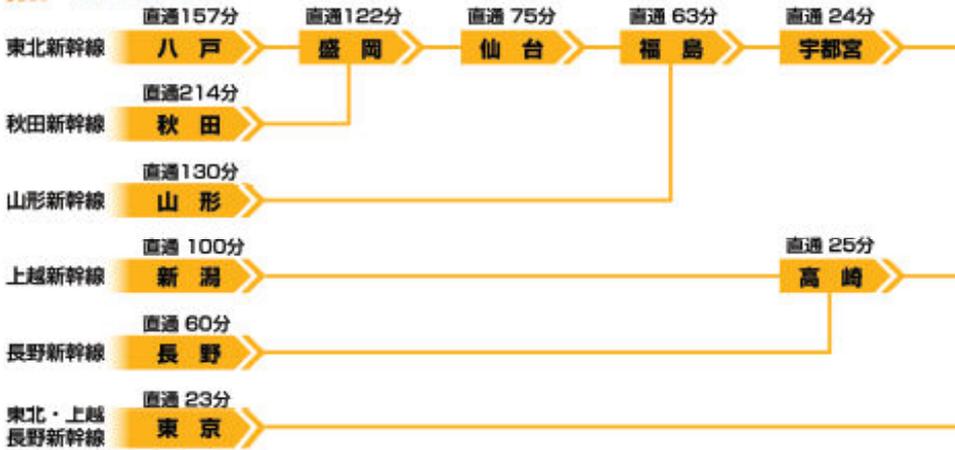


今回の学会場である大宮ソニックシティをモチーフにして、
 ・ビル君（最上階から眺望がすばらしいビル棟）
 ・ホールちゃん（グランドピアノを模した外観のホール棟）
 ・パレス君（本格的都市型ホテルのパレスホテル）の、ゆるキャラを作成しました。
 （小関紀之：獨協医科大学越谷病院）

学会場までの交通案内



新幹線で



在来線で

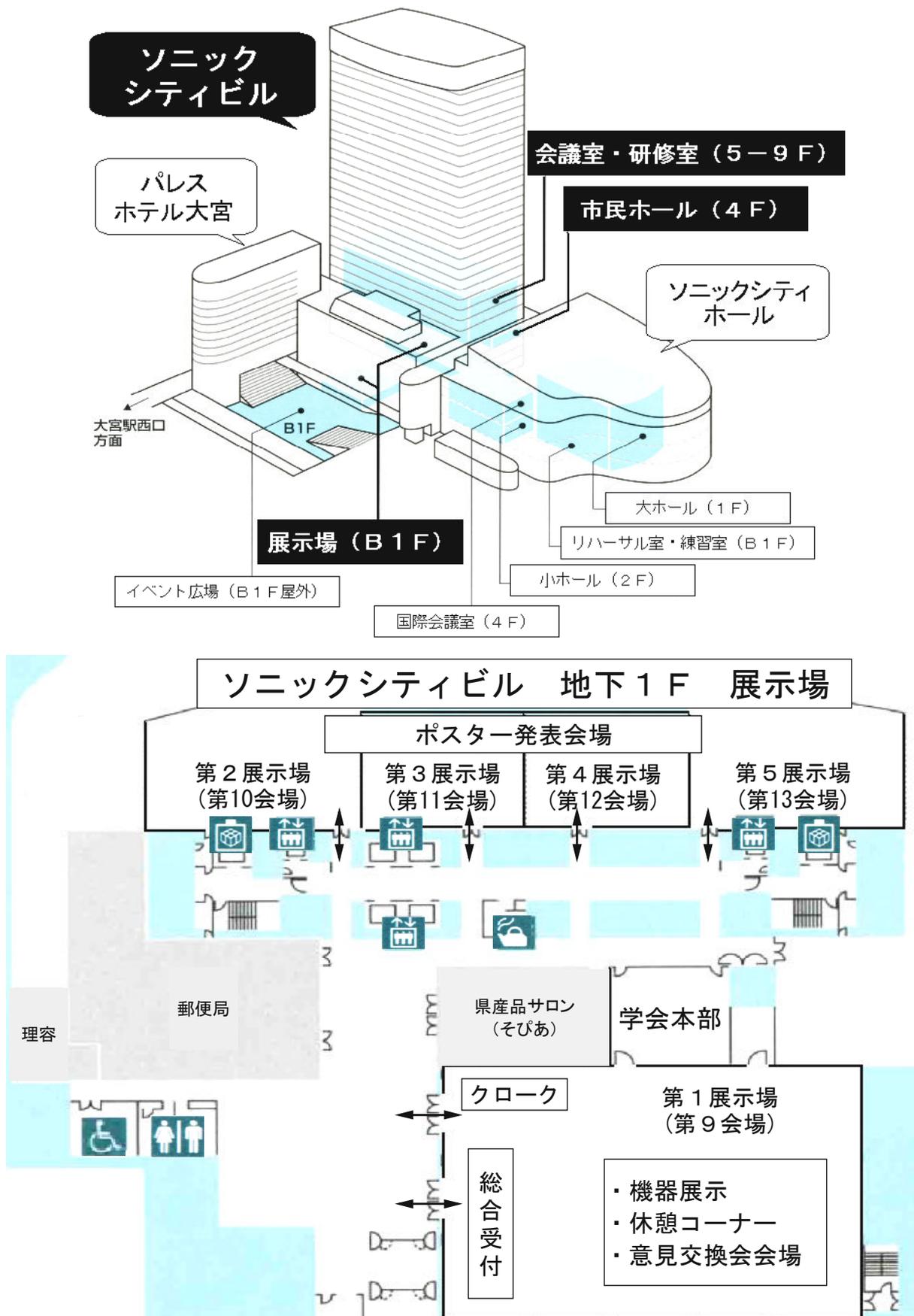


● お車でお越しの場合 首都高速道路埼玉大宮線(新都心西IC)より1Km

● 駐車場 ソニックシティ地下駐車場……30分/200円利用時間/7:00~23:00

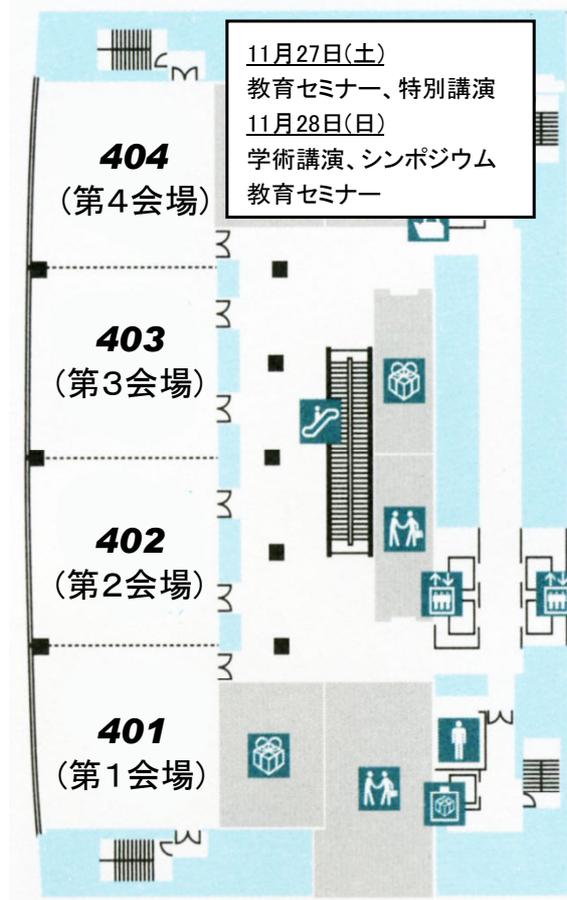
大宮 SONICシティ
SONIC CITY

学会場内の案内図①



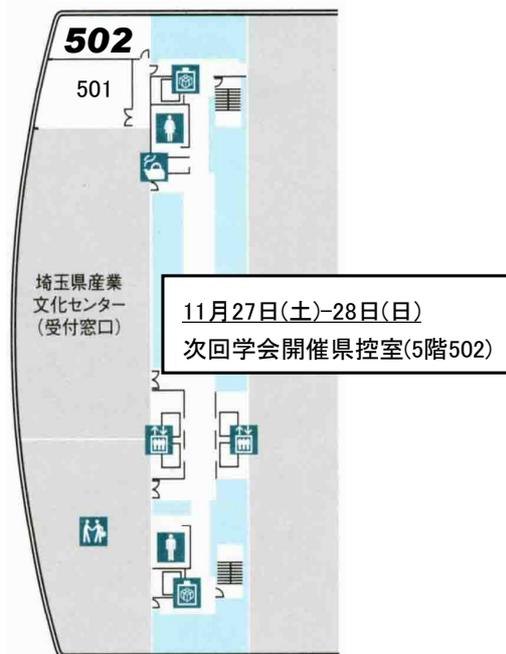
学会場内の案内図②

ソニックシティビル4階

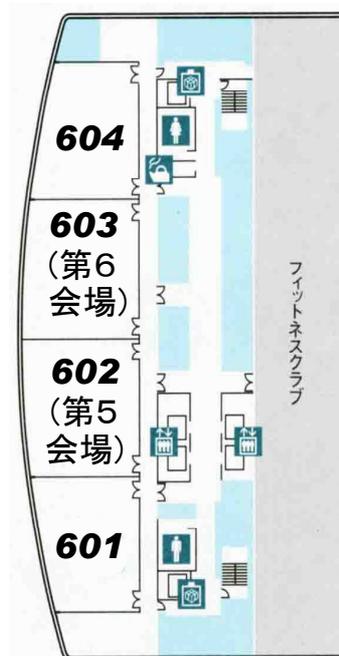


太字の部屋が会場です。それ以外は他団体の利用がありますのでご注意ください。

ソニックシティビル5階

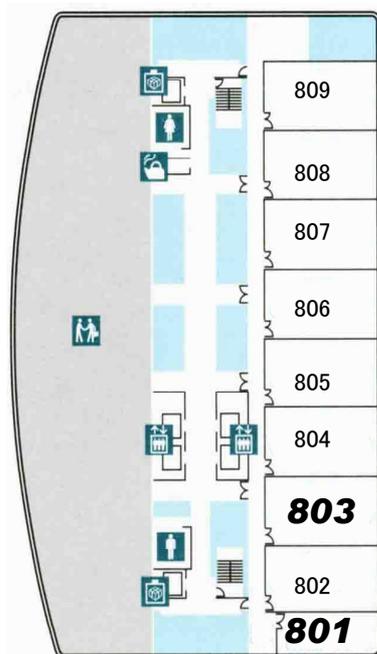


ソニックシティビル6階



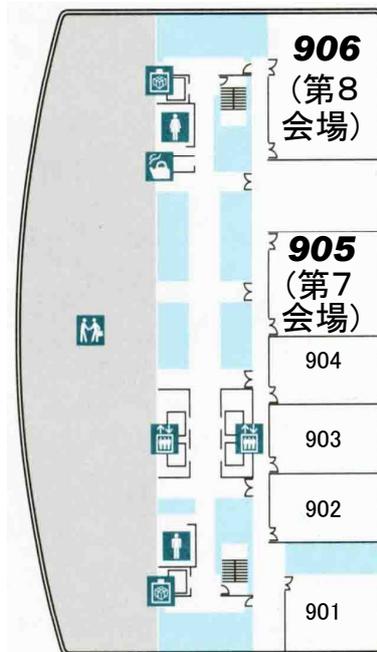
11月27日(土)-28日(日)
教育セミナー、シンポジウム
関甲信理事会(6階601)
実務委員控室(6階604)

ソニックシティビル8階



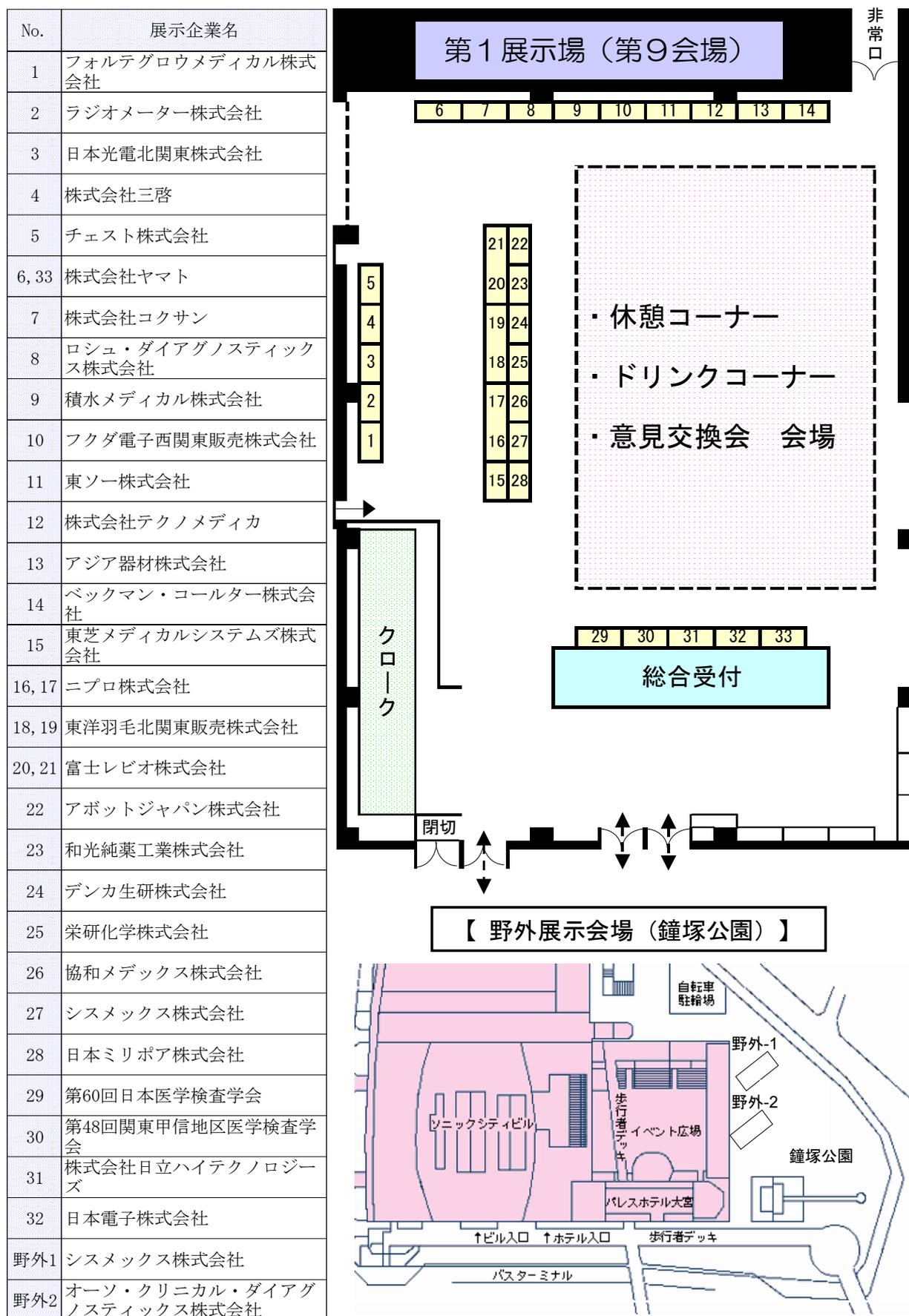
11月27日(土)
班長会議(8階803)
11月27日(土)-28日(日)
来賓控室(8階801)

ソニックシティビル9階



11月27日(土)
教育セミナー(9階905・906)

機器・試薬展示 会場配置



第47回関東甲信地区医学検査学会日程一覧（1日目）

11月27日（土）

	4F市民ホール				6F会議室		9F会議室					
	401	402	403	404	602	603	905	906				
11:00	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	第6会場	第7会場	第8会場	11:00			
12:00										12:00		
13:00	教育 セミナー 1 (輸血)	教育 セミナー 2 (生理)	教育 セミナー 3 (臨床化学)	教育 セミナー 4 (生理)	教育 セミナー 5 (公衆衛生)	教育 セミナー 6 (病理)	教育 セミナー 7 (生理)	教育 セミナー 8 (血液)	13:00			
14:00					コーヒー ブレイク セミナー1 13:30～		コーヒー ブレイク セミナー2 13:30～	コーヒー ブレイク セミナー3 13:30～	14:00			
15:00	特別公開講演 1 以心電心！-鉄道博物館で学ぶ安全文化- 14:30～15:30									15:00		
16:00	特別公開講演 2 鉄道大好き行け行けドクターの尿検査と 検診のすすめ 15:30～16:30									16:00		
17:00					教育 セミナー 9 (遺伝子・ 染色体) 16:45～	教育 セミナー 10 (生理) 16:45～	教育 セミナー 11 (生理) 16:45～		17:00			
18:00												18:00
19:00												19:00

- 【教育セミナー】
- 1：当直・日直における輸血検査 -血液型検査と交差適合試験-
 - 2：腹部超音波検査の進め方
 - 3：日常業務における生化学検査 -検査データの読み方-
 - 4：心電図の「基礎と臨床」 -認定心電検査技師資格更新指定講習会-
 - 5：「薬物乱用」について考える
 - 6：病理検査（染色関連）
 - 7：神経生理検査で知っておきたい電気生理の基礎知識
 - 8：血液細胞のささやきを聞き取るうパートⅡ -新WHO2008分類-
 - 9：血液疾患を対象とした遺伝子染色体検査の進め方と検査結果の解釈
 - 10：症例から考える脳波・誘発電位検査の留意点
 - 11：腹部超音波検査レポートの書き方

- 【コーヒーブレイクセミナー】
- | | |
|----------------------------|------------|
| 1：そうだったのか感染制御～感染制御の世界事情～ | シスメックス株式会社 |
| 2：肝機能検査：異常値を解釈するための必要な基礎知識 | 三光純薬株式会社 |
| 3：定量法試薬におけるバリデーシオンの活用法 | 和光純薬工業株式会社 |

第47回関東甲信地区医学検査学会日程一覧（1日目）

11月27日（土）

	地下1F展示場					5F会議室	6F会議室			8F会議室			
	第1展示場	第2展示場	第3展示場	第4展示場	第5展示場	商談室	502	601	604	801	803		
11:00	第9会場	第10会場	第11会場	第12会場	第13会場							11:00	
12:00	総合受付 クローク 11:00～	ポスター掲示（11:00-12:00）											12:00
13:00	機器展示	演題 1- 10 12:00 13:20	演題 39- 48 12:00 13:20		演題 148-156 12:00 13:12	学会本部	・次期間甲信学会開催県 群馬県控室 ・第60回日本医学検査学会控室	関甲信理事會会場 控室	実務委員控室	来賓控室		13:00	
14:00		スタンプ ラリー											
15:00	休憩 コーナー	ポスター掲示（14:50～16:30）											15:00
16:00	埼玉県 物産展 （ソピア）	ポスター掲示（14:50～16:30）											16:00
17:00		演題 11- 25 16:30 18:30	演題 59- 72 16:30 18:22	演題 92-107 16:30 18:38	学生演題 157-167 16:30 17:58							輸血研究班会議	17:00
18:00	展示会場 一時閉鎖	16:30 18:30	16:30 18:22	16:30 18:38	16:30 17:58								18:00
19:00	意見交換 会準備	ポスター撤去（原則は2日掲示）											19:00
20:00	展示会場 オープン 意見 交換会 19:00～ 21:00												20:00
21:00													21:00

- ・学会参加の受付は大宮ソニックシティビル地下1階 第1展示場の総合受付で行います
11月27日（土）11:00～18:00 11月28日（日） 8:30～13:00
- ・学会場内では学会参加証をネームホルダーに入れ、常に明示できる状態にしておいてください
- ・一般演題の座長と発表者は、総合受付で参加登録を行った後、担当会場の受付にお越しください。座長には「赤いリボン」と「優秀演題賞の評価票」、発表者には「黄色いリボン」をお渡します
- ・特別講演・学術講演の講師および司会者は60分前には学会受付にお越しください。なお、講演時間の15分前までには各会場にお越しください
- ・シンポジウム・教育セミナーの講師および司会者は、直接会場にお越しください。なお、技師会員については、あらかじめ学会参加登録を行ってください

第47回関東甲信地区医学検査学会日程一覧（2日目）

11月28日（日）

	4F市民ホール				6F会議室		地下1F展示場	
	401	402	403	404	602	603	第1展示場	
8:30	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	第6会場	第9会場	8:30
9:00							総合受付 クローク 8:30～	9:00
10:00	学術公開講演 1 ～女性特有のがん対策～ 子宮頸がんはHPVワクチンと 検診で予防できる 9:30～ 10:30		シンポジウム 1 (生理・ 管理運営)	シンポジウム 2 (臨床化学)	シンポジウム 3 (微生物)	シンポジウム 4 (免疫血清)	機器展示	10:00
11:00	学術公開講演 2 ～女性特有のがん対策～ 乳癌早期発見のための検査 10:30～11:45		教育 セミナー 12 (生理)	教育 セミナー 13 (輸血) 10:45～		教育 セミナー14 (免疫血清)		スタンプ ラリー
12:00							休憩 コーナー	12:00
13:00	ランチョン セミナー 1 12:15～	ランチョン セミナー 2 12:15～	ランチョン セミナー 3 12:15～	ランチョン セミナー 4 12:15～	ランチョン セミナー 5 12:15～	ランチョン セミナー 6 12:15～	埼玉県 物産展 (ソビア)	13:00
14:00	学術講演 1 ～女性特有のがん対策～ 子宮頸部細胞診における ベセスダシステム 13:45～15:00		シンポジウム 5 (一般) 13:30～	シンポジウム 6 (病理) 13:30～	教育 セミナー 15 (公衆衛生 ・微生物) 13:30～	日臨技 精度保証事業 伝達研修会 13:30～		14:00
15:00	学術講演 2 ～女性特有のがん対策～ 乳房超音波検査の基本手技と レポートの書き方 15:00～16:15							15:00
16:00							機器撤去 15:00～	16:00
17:00	閉 会 式 優秀発表賞表彰式 16:30～							17:00

【シンポジウムプログラム】

- 1：対応困難な要望とその対応を考える
- 2：臨床化学検査の落とし穴 ーみんなで共有しよう分析トラブルー
- 3：結核と非結核性抗酸菌症 ー過去・現在・未来ー
- 4：B型肝炎ウイルス（HBV）検査の注意事項と問題点
- 5：検体から多くの情報を読み取るために ー症例をとおして考えようー
- 6：病理検査室作業環境改善 ーホルムアルデヒド管理濃度0.1ppmへの挑戦ー

【教育セミナー】

- 12：臨床検査と医療過誤
- 13：血液センターの集約化
- 14：HIV検査の現状と課題
- 15：動物由来感染症 ー獣医療の現場から診たペットとヒトの感染症ー

【日臨技精度保証事業 伝達研修会】

- ・臨床検査の標準化とこれからの方向性

第47回関東甲信地区医学検査学会日程一覧（2日目）

11月28日（日）

	地下1F展示場				5F会議室	6F会議室			8F会議室	
	第2展示場	第3展示場	第4展示場	第5展示場		5F会議室	6F会議室	8F会議室		
8:30	第10会場	第11会場	第12会場	第13会場	商談室	502	601	604	801	8:30
9:00	ポスター掲示（8:30-10:00）				学会本部	次期関東甲信学会開催県 群馬県控室	関甲信理事會控室	実務委員控室	来賓控室	9:00
10:00										10:00
11:00	演題 30-38 演題 26-29 10:00 12:00	演題 73-84 10:00 11:36	演題 108-120 10:00 11:44	演題 168-183 10:00 12:08						11:00
12:00	ポスター掲示（12:20-13:20）					第60回日本医学検査学会控室				12:00
13:00										13:00
14:00	演題 49-58 13:30 14:58	演題 85-91 13:30 14:26	演題 121-133 13:30 15:14	演題 134-147 13:30 15:22						14:00
15:00	ポスター撤去									15:00
16:00										16:00
17:00										17:00

【ランチョンセミナープログラム】

- 1：迅速診断検査の有用性と限界 — 尿中抗原検査を中心に —
インバネス・メディカル・ジャパン株式会社
- 2：全自動血液凝固分析装置COAGTRON-180の紹介と使用経験
協和メデックス株式会社
- 3：脂質検査の標準化 — LDL-C を中心に —
積水メディカル株式会社
- 4：輸血のオーダーリング・電子カルテ導入に伴う基礎知識
オーソ・クリニカルダイアグノスティクス株式会社
- 5：呼吸器感染症の新たな遺伝子検査法
栄研化学株式会社
- 6：乳癌診療の最前線
シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

演題発表時間一覽

	第10会場(第2展示場)			第11会場(第3展示場)			第12会場(第4展示場)			第13会場(第5展示場)		
	発表時間	演題番号	部門番号	発表時間	演題番号	部門番号	発表時間	演題番号	部門番号	発表時間	演題番号	部門番号
11月27日(土)	12:00 - 12:08	1	微1	12:00 - 12:08	39	子1				12:00 - 12:08	148	学1
	12:08 - 12:16	2	微2	12:08 - 12:16	40	子2				12:08 - 12:16	149	学2
	12:16 - 12:24	3	微3	12:16 - 12:24	41	子3				12:16 - 12:24	150	学3
	12:24 - 12:32	4	微4	12:24 - 12:32	42	子4				12:24 - 12:32	151	学4
	12:32 - 12:40	5	微5	12:32 - 12:40	43	子5				12:32 - 12:40	152	学5
	12:40 - 12:48	6	微6	12:40 - 12:48	44	子6				12:40 - 12:48	153	学6
	12:48 - 12:56	7	微7	12:48 - 12:56	45	子7				12:48 - 12:56	154	学7
	12:56 - 13:04	8	微8	12:56 - 13:04	46	子8				12:56 - 13:04	155	学8
	13:04 - 13:12	9	微9	13:04 - 13:12	47	子9				13:04 - 13:12	156	学9
	13:12 - 13:20	10	微10	13:12 - 13:20	48	子10						
	16:30 - 16:38	11	微11	16:30 - 16:38	59	化1	16:30 - 16:38	92	細1	16:30 - 16:38	157	学10
	16:38 - 16:46	12	微12	16:38 - 16:46	60	化2	16:38 - 16:46	93	細2	16:38 - 16:46	158	学11
	16:46 - 16:54	13	微13	16:46 - 16:54	61	化3	16:46 - 16:54	94	細3	16:46 - 16:54	159	学12
	16:54 - 17:02	14	微14	16:54 - 17:02	62	化4	16:54 - 17:02	95	細4	16:54 - 17:02	160	学13
	17:02 - 17:10	15	微15	17:02 - 17:10	63	化5	17:02 - 17:10	96	細5	17:02 - 17:10	161	学14
	17:10 - 17:18	16	微16	17:10 - 17:18	64	化6	17:10 - 17:18	97	病1	17:10 - 17:18	162	学15
	17:18 - 17:26	17	微17	17:18 - 17:26	65	化7	17:18 - 17:26	98	病2	17:18 - 17:26	163	学16
	17:26 - 17:34	18	微18	17:26 - 17:34	66	化8	17:26 - 17:34	99	病3	17:26 - 17:34	164	学17
	17:34 - 17:42	19	微19	17:34 - 17:42	67	化9	17:34 - 17:42	100	病4	17:34 - 17:42	165	学18
	17:42 - 17:50	20	微20	17:42 - 17:50	68	化10	17:42 - 17:50	101	病5	17:42 - 17:50	166	学19
	17:50 - 17:58	21	微21	17:50 - 17:58	69	化11	17:50 - 17:58	102	病6	17:50 - 17:58	167	学20
	17:58 - 18:06	22	微22	17:58 - 18:06	70	化12	17:58 - 18:06	103	病7			
	18:06 - 18:14	23	微23	18:06 - 18:14	71	化13	18:06 - 18:14	104	病8			
	18:14 - 18:22	24	微24	18:14 - 18:22	72	化14	18:14 - 18:22	105	病9			
	18:22 - 18:30	25	微25				18:22 - 18:30	106	病10			
						18:30 - 18:38	107	病11				
11月28日(日)	第10会場(第2展示場)			第11会場(第3展示場)			第12会場(第4展示場)			第13会場(第5展示場)		
	発表時間	演題番号	部門番号	発表時間	演題番号	部門番号	発表時間	演題番号	部門番号	発表時間	演題番号	部門番号
	10:00 - 10:08	30	般1	10:00 - 10:08	73	血1	10:00 - 10:08	108	生1	10:00 - 10:08	168	学21
	10:08 - 10:16	31	般2	10:08 - 10:16	74	血2	10:08 - 10:16	109	生2	10:08 - 10:16	169	学22
	10:16 - 10:24	32	般3	10:16 - 10:24	75	血3	10:16 - 10:24	110	生3	10:16 - 10:24	170	学23
	10:24 - 10:32	33	般4	10:24 - 10:32	76	血4	10:24 - 10:32	111	生4	10:24 - 10:32	171	学24
	10:32 - 10:40	34	般5	10:32 - 10:40	77	血5	10:32 - 10:40	112	生5	10:32 - 10:40	172	学25
	10:40 - 10:48	35	般6	10:40 - 10:48	78	血6	10:40 - 10:48	113	生6	10:40 - 10:48	173	学26
	10:48 - 10:56	36	般7	10:48 - 10:56	79	血7	10:48 - 10:56	114	生7	10:48 - 10:56	174	学27
	10:56 - 11:04	37	般8	10:56 - 11:04	80	血8	10:56 - 11:04	115	生8	10:56 - 11:04	175	学28
	11:04 - 11:12	38	般9	11:04 - 11:12	81	血9	11:04 - 11:12	116	生9	11:04 - 11:12	176	学29
				11:12 - 11:20	82	血10	11:12 - 11:20	117	生10	11:12 - 11:20	177	学30
	11:20 - 11:28	26	微26	11:20 - 11:28	83	血11	11:20 - 11:28	118	生11	11:20 - 11:28	178	学31
	11:28 - 11:36	27	微27	11:28 - 11:36	84	血12	11:28 - 11:36	119	生12	11:28 - 11:36	179	学32
	11:36 - 11:44	28	微28				11:36 - 11:44	120	生13	11:36 - 11:44	180	学33
	11:44 - 11:52	29	微29							11:44 - 11:52	181	学34
										11:52 - 12:00	182	学35
										12:00 - 12:08	183	学36
	13:30 - 13:38	49	子11	13:30 - 13:38	85	輸1	13:30 - 13:38	121	生14	13:30 - 13:38	134	免1
	13:38 - 13:46	50	子12	13:38 - 13:46	86	輸2	13:38 - 13:46	122	生15	13:38 - 13:46	135	免2
	13:46 - 13:54	51	子13	13:46 - 13:54	87	輸3	13:46 - 13:54	123	生16	13:46 - 13:54	136	免3
	13:54 - 14:02	52	子14	13:54 - 14:02	88	輸4	13:54 - 14:02	124	生17	13:54 - 14:02	137	免4
	14:02 - 14:10	53	子15	14:02 - 14:10	89	輸5	14:02 - 14:10	125	生18	14:02 - 14:10	138	免5
				14:10 - 14:18	90	輸6	14:10 - 14:18	126	生19	14:10 - 14:18	139	免6
	14:18 - 14:26	54	管1	14:18 - 14:26	91	輸7	14:18 - 14:26	127	生20	14:18 - 14:26	140	免7
	14:26 - 14:34	55	管2				14:26 - 14:34	128	生21	14:26 - 14:34	141	免8
	14:34 - 14:42	56	管3				14:34 - 14:42	129	生22	14:34 - 14:42	142	免9
	14:42 - 14:50	57	管4				14:42 - 14:50	130	生23	14:42 - 14:50	143	免10
	14:50 - 14:58	58	管5				14:50 - 14:58	131	生24	14:50 - 14:58	144	免11
							14:58 - 15:06	132	生25	14:58 - 15:06	145	免12
							15:06 - 15:14	133	生26	15:06 - 15:14	146	免13
										15:14 - 15:22	147	免14

【部門番号】 微:微生物, 般:一般検査, 子:子一ム医療, 管:管理運営, 化:臨床化学, 血:血液, 輸:輸血
 細:細胞, 病:病理, 生:生理, 免:免疫血清, 学:学生

第47回関東甲信地区医学検査学会運営のお知らせ

I 学会へ参加される方へ

1. 学会参加費

日臨技会員、賛助会員は5,000円、非会員は10,000円です。参加費と引き換えに学会参加証（名札）とネームホルダー、学会抄録集をお渡しします。学生は無料ですが受付時に「学生証」を提示してください。学会抄録集の別途購入を希望される方は総合受付において1冊1,000円で販売します。

2. 受付

学会参加の受付は大宮ソニックシティビル地下1階 第1展示場の総合受付で行います。

- ・11月27日（土） 11：00～18：00
- ・11月28日（日） 8：30～13：00

（学会が始まる直前は混雑が予想されますので、早めにお越し下さい）

平成22年度「日臨技会員証」で学会登録を行います。「日臨技会員証」を総合受付に提示してください。当日会員証を持参していない会員は受付時に申し出てください。

学会場内では学会参加証をネームホルダーに入れ、常に明示できる状態にしておいてください。

3. コーヒーブレイクセミナー、ランチョンセミナー

初の試みとしてコーヒーブレイクセミナー（11月27日 土）を企画しました。厳選したケーキとコーヒー・紅茶を準備しております。また、ランチョンセミナー（11月28日：日）の昼食は関東地方ご当地駅弁を手配しています。形式にこだわらないセミナー運営を賛助会員のご協力を実現しました。整理券を第1展示場の総合受付前のロビーにて、それぞれお一人様1枚のみ先着順に配布いたします。大勢の方々の参加をお待ちしております。

- ・コーヒーブレイクセミナー 整理券配布時間 11月27日（土） 11：00～
- ・ランチョンセミナー 整理券配布時間 11月28日（日） 8：30～

4. 意見交換会

学会1日目（11月27日：土）19時00分より、第1展示場にて意見交換会を開催いたします。参加費は会員・賛助会員3,000円、非会員5,000円です。参加希望の方は「総合受付」にてお申込ください。

なお、意見交換会の実施時間帯は展示ブースもオープンしています。各ブースでもメーカー主催の企画が実施されます。情報交換の場としても大いにご活用ください。

Ⅱ 発表者、座長および司会者の方へ

今回の学会では一般演題（学生演題・コマーシャル演題を含む）はすべてポスター発表となっています。ポスターの展示会場は、ソニックシティビル地下1階の第2～5展示場（第10～13会場）です。ポスターを掲示する場所は演題番号で指定します。発表者は、発表時刻の30分前からポスター付近に待機してください。発表時間は1演題につき発表5分、質疑3分の計8分以内です。発表は座長の指示の下にポスター前でのラウンド形式で進行します。

一般演題、学生演題の中から優れた演題に「優秀演題賞」、「関東甲信地区臨床検査技師会 会長賞」を授与します。抄録とポスター内容および話題性や構成を審査して選考委員会で協議し、上位の若干名に賞状と副賞を贈呈します。受賞者の発表および表彰は11月28日(日)16時30分からの閉会式で行いますので、ポスター発表者はお出席ください（欠席の場合は失格となることもあります）。なお、選考は一般演題および学生演題を対象としコマーシャル演題は除きますのでご了承ください。

1. 受付

一般演題の座長と発表者は、総合受付で参加登録を行った後、担当会場の受付にお越しください。座長には「赤いリボン」と「優秀演題賞の評価票」、発表者には「黄色いリボン」をお渡しします。ポスターセッション中は着用してください。

ポスター掲示・発表・撤去の時間割

	掲示	発表	撤去
11月27日(土)	11:00～12:00	12:00～13:20	発表後～28日16:00
	15:30～16:30	16:30～18:38	
11月28日(日)	8:30～10:00	10:30～12:08	発表後～16:00
	12:00～13:30	13:30～15:22	

1日目（11月27日）に発表が終えた演者も原則としてポスターは、原則として二日間の学会開催中は掲示をお願いいたします。なお、ポスターの撤去は11月28日(日)の16時には完了してください。撤去時間を過ぎてても未撤去のポスターは事務局にて処分させていただきますのでご了承ください。

2. ポスター掲示要領

会場に準備されている展示パネルは大きさが「縦2100mm×横900mm」です。パネル上部に演題番号が記載されていますのでお間違えのないよう掲示してください。貼付用具（押ピン・テープ）は、実行委員会が展示会場に準備しますのでご使用ください。

- ・今回の発表では、パネルの下の部分に質問用紙を貼るスペースを設けます。演題に対して質問がある場合は、会場入り口に置かれた「質問用紙」を使用して演題番号、演題名、質問者の所属・氏名（E-mailアドレス）を記入のうえ質問を簡潔に記述し当該演題の質問スペースに貼ってください。質問は、一般演題・学生演題・コマーシャル演題のすべてのポスターが対象となります。

- ・発表者は、質問に対して可能な限り回答を記述し、質問用紙を再掲示してください。何らかの都合で回答ができない場合は、後日、質問者のメールアドレスに返事をお願いします。
- ・質問の回答が記述されている質問用紙は、発表終了後に質問者がお持ち帰りください。

3. 優秀演題賞

「優秀演題賞」は抄録とポスターの内容を以下の基準で審査します。

(1) 抄録審査は以下について評価をします。

- ・演題が抄録の内容を端的に表現している
- ・序文に現状と問題点などの動機が簡潔に述べられている
- ・対象や方法、材料が読み手に伝わるように正しく記されている
- ・優れている点、改善した点が具体的に数値データで示されている
- ・結果から結論を導く過程が考察されている
- ・目的に対する結論が述べられている

(2) ポスター審査は以下について評価をします。

- ・タイトル、アピールポイント、結論などが目に付きテーマをすぐに掴むことができる
- ・文字や図表が遠くからでも読め、情報過多でない
- ・目的、方法、結果、結論がポスターを見ただけですんなり理解できる
- ・発表の構成が優れ、発表時間が守られている
- ・言葉が正確で簡潔、説明がわかりやすく誤りがない
- ・聴衆との意思の疎通、質疑応答がよい

4. 特別企画

- (1) 特別講演・学術講演の講師および司会者は 60 分前には学会受付にお越しください。なお、講演時間の 15 分前までには各会場にお越しください。
- (2) シンポジウム・教育セミナーの講師および司会者は、直接会場にお越しください。なお、技師会員については、あらかじめ学会参加登録を行ってください。

Ⅲ 学会案内

1. クローク

大宮ソニックシティビル地下 1 階 第 1 展示場に設置します。貴重品のお預かりはお断りします。お預かりは、当日限りとしますので下記の閉鎖時間までに必ずお引取りください。なお、27 日（土）は意見交換会開始前の 18 時に閉鎖となりますので特にご注意下さい。

- ・11月27日（土） 11：00～18：00
- ・11月28日（日） 8：30～15：00

2. 駐車場

大宮ソニックシティ地下駐車場(30分/200円 利用時間/7時~23時)、および周辺に有料駐車場はありますが、混雑が予想されますので公共交通機関をご利用ください。

3. 喫煙および飲食

会場内および周辺道路・通路は、指定場所を除き禁煙です。また、発表会場内での飲食はコーヒープレイクセミナー、ランチョンセミナー、ドリンクコーナーを除き禁止いたします。

4. ドリンクコーナー

第1展示場にドリンクコーナー(休憩所)を設置します。ご歓談にご利用ください。

5. スタンプラリー

展示会場にてスタンプラリーを行います。盛りだくさん?の景品を準備し、皆様のお越しをお待ちしております。

6. 携帯電話など

会場内に入場する際には、携帯電話などの通信機器は必ずマナーモードにしてください。学会進行の妨げや、その他の参加者の迷惑にならないようご注意ください。

7. 次期学会PRコーナー

第48回関東甲信地区医学検査学会および第60回日本医学検査学会の宣伝ブースを第1展示場内に設置しますのでお立ち寄りください。

IV 本部・控室

1. 第47回関東甲信地区医学検査学会 学会本部

大宮ソニックシティビル地下1階 商談室(第1展示場:第9会場横)

2. 次期関甲信学会開催県控室 (社)群馬県臨床衛生検査技師会

大宮ソニックシティビル 5階(502)会議室

3. 関東甲信地区理事会

大宮ソニックシティビル 6階(601)会議室

4. 実務委員控室

大宮ソニックシティビル 6階(604)会議室

5. 来賓控室

大宮ソニックシティビル 8階 (801) 会議室

V 関連行事

1. 関東甲信地区理事会

日時：11月27日(土) 10:00～13:30

場所：大宮ソニックシティビル 6階 (601) 会議室

2. 関東甲信地区連絡協議会

日時：11月28日(日) 9:00～12:00

場所：大宮ソニックシティビル 6階 (601) 会議室

3. 関東甲信地区血清研究班班長会議

日時：11月27日(土) 13:30～15:00

場所：大宮ソニックシティビル 8階 (803) 会議室

4. 関東甲信地区輸血研究班班長会議

日時：11月27日(土) 15:00～17:00

場所：大宮ソニックシティビル 8階 (803) 会議室

関東甲信地区医学検査学会 開催地・学会長一覧

回	年度	担当技師会	会 場	学 会 長
第 1 回	1964年度	千葉県	東京大学伝染病研究所	木村長雄
第 2 回	1965年度	埼玉県	東京大学伝染病研究所	山本郁夫
第 3 回	1966年度	群馬県	前橋市水道会館	原田賢治
第 4 回	1967年度	神奈川県	横浜市開港記念会館	佐藤定吉
第 5 回	1968年度	茨城県	県民文化センター	牧野正顕
第 6 回	1969年度	東京都	東大医科研・国立公衆衛生院	高椋卯吉
第 7 回	1970年度	栃木県	宇都宮栃木会館	木村貞夫
第 8 回	1971年度	長野県	松本市民会館	塩原芳郎
第 9 回	1972年度	山梨県	山梨県民会館	小沢尚夫
第 10 回	1973年度	千葉県	県教育会館・職員会館	吉岡稔
第 11 回	1974年度	埼玉県	浦和市民会館	星野歳藏
第 12 回	1975年度	群馬県	群馬県民会館	高橋松治
第 13 回	1976年度	茨城県	水戸市民会館	中井川成吉
第 14 回	1977年度	神奈川県	神奈川県立衛生短期大学	秋山昭一
第 15 回	1978年度	東京都	笹川記念会館	佐藤和身
第 16 回	1979年度	栃木県	小山市文化センター	青山巖
第 17 回	1980年度	山梨県	山梨大学工学部	有泉昇
第 18 回	1981年度	長野県	松本市民会館	林滋
第 19 回	1982年度	千葉県	木更津市民会館	宇野沢高春
第 20 回	1983年度	埼玉県	蕨市民会館	須永隆雄
第 21 回	1984年度	群馬県	群馬県民会館	沢清一
第 22 回	1985年度	神奈川県	小田原女子短期大学	三宅巖
第 23 回	1986年度	茨城県	県民文化センター	軍司光夫
第 24 回	1987年度	東京都	サンシャインシティ	甲斐幸作
第 25 回	1988年度	栃木県	グリーンパレス	川嶋勝士郎
第 26 回	1989年度	山梨県	シティプラザ紫玉苑	住家明
第 27 回	1990年度	長野県	長野県民文化会館	古池嘉郎
第 28 回	1991年度	千葉県	幕張メッセ国際会議場	佐野清司
第 29 回	1992年度	埼玉県	大宮ソニックシティ	中馬光好
第 30 回	1993年度	群馬県	グリーンドーム前橋	原文子
第 31 回	1994年度	神奈川県	パシフィコ横浜	鈴木節子
第 32 回	1995年度	茨城県	県民文化センター	佐々木喬
第 33 回	1996年度	東京都	北とびあ	横澤光博
第 34 回	1997年度	栃木県	栃木総合文化センター	加藤忠雄
第 35 回	1998年度	長野県	長野県松本文化会館	加藤亮二
第 36 回	1999年度	山梨県	甲府市総合市民会館	金丸佳郎
第 37 回	2000年度	千葉県	幕張メッセ国際会議場	川島徹
第 38 回	2001年度	埼玉県	埼玉県県民健康センター	原繁一
第 39 回	2002年度	群馬県	群馬県民会館	館野誠
第 40 回	2003年度	神奈川県	パシフィコ横浜	古木量一郎
第 41 回	2004年度	茨城県	つくば国際会議場	鈴木悦
第 42 回	2005年度	東京都	タワーホール船堀	岩井行一
第 43 回	2006年度	栃木県	鬼怒川ホテルニュー岡部	西見博之
第 44 回	2007年度	長野県	軽井沢プリンスホテルウエスト	滝澤通
第 45 回	2008年度	山梨県	アピオ甲府	細萱茂実
第 46 回	2009年度	千葉県	幕張メッセ国際会議場	森重彦
第 47 回	2010年度	埼玉県	大宮ソニックシティ	砂川進

第 47 回 関東甲信地区医学検査学会 都県別演題数

	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	山梨県	長野県	神奈川県	東京都	分野別合計	企業演題	演題合計
微生物	3	1	2	14	2			3	4	29		29
免疫血清				4	2			1	2	9	1	10
血液	1		3	7			1			12		12
臨床化学			1	8	2			1	3	15	2	17
病理	1	3	3	2	2				2	13		13
細胞				2			1			3		3
生理	1	2		13	2		2	5	2	27	1	28
一般	1	1		2		1			2	7		7
公衆衛生			1	1						2		2
輸血	1	1		2				1	2	7		7
情報・システム			1							1		1
管理運営				1					1	2		2
チーム医療			1	4	1	1		1	3	11		11
その他			1	2			1		1	5		5
学生				16	1				19	36		36
都県別合計	8	8	13	78	12	2	5	12	41	179	4	183

特別講演・学術講演・シンポジウム・教育セミナー 司会一覧

企 画	司 会	所 属	技師会
特別公開講演 1	砂川 進	越谷市立病院	埼玉県
特別公開講演 2	神山 清志	浦和医師会メディカルセンター	埼玉県
学術公開講演 1	津田聡一郎	株式会社ビー・エム・エル総合研究所	埼玉県
学術公開講演 2	前原 光江	埼玉社会保険病院	埼玉県
学 術 講 演 1	金守 彰	済生会川口総合病院	埼玉県
学 術 講 演 2	岡田 茂治	埼玉県立がんセンター	埼玉県
シンポジウム 1	草間 昭俊	特定・特別医療法人慈泉会相澤病院 臨床検査センター	長野県
	今村まゆみ	山梨県立中央病院	山梨県
シンポジウム 2	中西 貴裕	東京都済生会中央病院	東京都
	三木 隆治	獨協医科大学越谷病院	埼玉県
シンポジウム 3	荻野 毅史	済生会川口総合病院	埼玉県
	金田 光稔	浦和医師会メディカルセンター	埼玉県
シンポジウム 4	藤代 政浩	獨協医科大学越谷病院	埼玉県
	庄司 和春	埼玉医科大学総合医療センター	埼玉県
	相坂由里子	自治医科大学附属さいたま医療センター	埼玉県
シンポジウム 5	山浦 久	さいたま市立病院	埼玉県
	猪浦 一人	埼玉県済生会栗橋病院	埼玉県
シンポジウム 6	小澤 英樹	株式会社ピーシーエルジャパン病理細胞診センター	埼玉県
	佐藤 一穂	さいたま市民医療センター	埼玉県
教育セミナー 1	市川喜美子	東京医科大学病院	東京都
教育セミナー 2	有馬ひとみ	前橋赤十字病院	群馬県
教育セミナー 3	柴田 真明	上尾中央総合病院	埼玉県
教育セミナー 4	富原 健	帝京大学医学部附属病院	東京都
	家城 正和	埼玉県立がんセンター	埼玉県
教育セミナー 5	長崎 広美	浦和医師会メディカルセンター	埼玉県
	菊地 孝司	さいたま市健康科学研究センター	埼玉県
教育セミナー 6	沼上 秀博	埼玉県立がんセンター	埼玉県
	渡辺 俊宏	上尾中央臨床検査研究所	埼玉県
教育セミナー 7	山本美津代	朝日生命成人病研究所附属丸の内病院	東京都
教育セミナー 8	羽鳥 浩司	埼玉社会保険病院	埼玉県
教育セミナー 9	園山 政行	自治医科大学附属さいたま医療センター	埼玉県
教育セミナー 10	高橋 修	市川市リハビリテーション病院	千葉県
教育セミナー 11	中野 英貴	小張総合病院	千葉県
教育セミナー 12	仲野 浩	埼玉医科大学病院	埼玉県
教育セミナー 13	見城 千春	埼玉社会保険病院	埼玉県
教育セミナー 14	佐野 悦子	浦和医師会メディカルセンター	埼玉県
教育セミナー 15	荻野 毅史	済生会川口総合病院	埼玉県
	阿保 一茂	さいたま赤十字病院	埼玉県
日臨技精度保証 事業伝達研修会	荒木 秀夫	日本大学医学部附属板橋病院	東京都

第47回 関東甲信地区医学検査学会 一般・学生・CM 演題座長一覧

区分	部 門	演題番号	氏 名	所 属	技 師 会
一般・CM演題	微 生 物	1～5	内 田 幹	山梨大学医学部附属病院	山 梨 県
		6～10	小 林 訓	佐久市立国保浅間総合病院	長 野 県
		11～15	村 田 正 太	千葉大学医学部附属病院	千 葉 県
		16～20	荻 野 毅 史	済生会川口総合病院	埼 玉 県
		21～25	古 畑 健 司	株式会社ビー・エム・エル総合研究所	埼 玉 県
		26～29	永 野 栄 子	獨協医科大学越谷病院	埼 玉 県
	一 般	30～33	河 野 秀 幸	水戸済生会総合病院	茨 木 県
		34～38	神 山 恵 多	群馬大学医学部附属病院	群 馬 県
	チ ー ム 医 療	39～43	原 島 典 子	埼玉医科大学総合医療センター	埼 玉 県
		44～48	並 木 薫	埼玉県済生会栗橋病院	埼 玉 県
		49～53	遠 藤 敏 彦	川口市立医療センター	埼 玉 県
	管 理 運 営	54～58	佐久間まみ子	さいたま市立病院	埼 玉 県
	臨 床 化 学	59～63	菅 野 光 俊	信州大学医学部附属病院	長 野 県
		64～68	茂 木 孝 一	深谷市・大里郡医師会メヂカルセンター	埼 玉 県
		69～72	三 木 隆 二	獨協医科大学越谷病院	埼 玉 県
	血 液	73～76	久保田しづえ	伊勢崎市民病院	群 馬 県
		77～80	沼 波 亮 一	株式会社日立製作所ひたちなか総合病院	茨 木 県
		81～84	根 岸 永 和	さいたま赤十字病院	埼 玉 県
	輸 血	85～88	平 賀 久 代	J A長野厚生連佐久総合病院	群 馬 県
		89～91	武 関 雄 二	自治医科大学附属さいたま医療センター	埼 玉 県
	細 胞	92～96	草 刈 宏 有	聖マリアンナ医科大学病院	神 奈 川 県
	病 理	97～102	芦 沢 正 美	山梨県立中央病院	山 梨 県
		103～107	小野寺清隆	千葉大学医学部附属病院	千 葉 県
	生 理	108～111	岡 政 行	船橋市立医療センター	千 葉 県
		112～116	諏 訪 部 桂	(財)脳血管研究所附属美原記念病院	群 馬 県
		117～120	野 尻 誠	足利赤十字病院	栃 木 県
		121～124	福 島 浩 二	東海大学医学部附属病院	神 奈 川 県
		125～128	木 崎 直 人	杏林大学医学部附属病院	東 京 都
		129～133	高 梨 淳 子	北里研究所メディカルセンター病院	埼 玉 県
	免 疫 血 清	134～137	三 枝 太 郎	東京都済生会中央病院	東 京 都
		138～141	齊 藤 雅 一	埼玉医科大学病院	埼 玉 県
		142～147	土 筆 智 晶	北里大学病院	神 奈 川 県
	学 生 演 題	臨 床 化 学	148～152	小 山 博 史	埼玉社会保険病院
微 生 物		153～156	砂 押 克 彦	埼玉県衛生研究所	埼 玉 県
遺 伝 子 ・ 情 報		157～159	後 藤 義 也	埼玉医科大学国際医療センター	埼 玉 県
生 理		160～163	中 村 浩 司	筑波メディカルセンター病院	茨 木 県
血 液		164～167	大 野 み どり	東松山市立市民病院	埼 玉 県
一 般		168～171	原 美 津 夫	駿河台日本大学病院	東 京 都
		172～175	山 浦 久	さいたま市立病院	埼 玉 県
		176～179	山 本 英 俊	株式会社ビー・エム・エル総合研究所	埼 玉 県
	180～183	深 田 茂 則	埼玉医科大学国際医療センター	埼 玉 県	

協賛企業一覧

No.	企業名	広告	CM演題	展示	ランチョン・コーヒープレークセミナー
1	インバネス・メディカル・ジャパン株式会社				●
2	日本ミリポア株式会社		●	●	
3	シスメックス株式会社	●	●	●	●
4	協和メデックス株式会社			●	●
5	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社	●			●
6	株式会社ビー・エム・エル	●			
7	日本ベクトン・ディッキンソン株式会社	●			
8	栄研化学株式会社	●		●	●
9	関東化学株式会社	●			
10	デンカ生研株式会社	●		●	
11	オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス株式会社			●	●
12	アボットジャパン株式会社	●		●	
13	和光純薬工業株式会社	●		●	●
14	積水メディカル株式会社	●		●	●
15	株式会社ミズホメディー	●			
16	株式会社スズケン	●			
17	株式会社コクサン	●		●	
18	富士レビオ株式会社			●	
19	三光純薬株式会社				●
20	ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社	●		●	
21	株式会社ムトウ	●			
22	鍋林フジサイエンス株式会社	●			
23	ニッターボーメディカル株式会社	●			
24	フクダ電子西関東販売株式会社	●	●	●	
25	東芝メディカルシステムズ株式会社			●	
26	東ソー株式会社			●	
27	株式会社エスアールエル	●			
28	株式会社セロテック	●			
29	株式会社テクノメディカ			●	
30	アルフレッサ株式会社	●			
31	株式会社スギヤマゲン	●			
32	株式会社メデカジャパン・ラボラトリー	●			
33	アジア器材株式会社			●	
34	株式会社日立ハイテクノロジーズ	●		●	
35	ベックマン・コールター株式会社	●		●	
36	チェスト株式会社			●	
37	フォルテグロウメディカル株式会社	●		●	
38	株式会社サンリツ	●			
39	株式会社シノテスト	●			
40	日本光電北関東株式会社	●		●	
41	極東製薬工業株式会社	●			
42	株式会社アスト	●			
43	ラジオメーター株式会社			●	
44	東洋羽毛北関東販売株式会社	●		●	
45	日本電子株式会社			●	
46	三菱化学メディエンス株式会社	●			
47	株式会社三啓			●	
48	テルモ株式会社	●			
49	ノバ・バイオメディカル株式会社	●			
50	株式会社ヤマト			●	
51	バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社	●			
52	株式会社栗原医療器械店	●			
53	ニプロ株式会社			●	
54	東洋紡績株式会社	●			
55	株式会社三和化学研究所	●			
56	株式会社アイディエス	●			
57	大塚製薬株式会社	●			

- ご協力に深謝いたします -

プログラムⅠ（特別講演・学術講演・シンポジウム・教育セミナー）

特別公開講演 1:以心電心！—鉄道博物館で学ぶ安全文化—

11月27日（土）14:30～15:30 第1-4会場（市民ホール401-404）

司会：砂川 進（学会長：越谷市立病院 臨床検査科）

講師：松久 謙一（鉄道博物館 副館長）

特別公開講演 2:鉄道大好き行け行けドクターの尿検査と検診のすすめ

11月27日（土）15:30～16:30 第1-4会場（市民ホール401-404）

司会：神山 清志（実行委員長：浦和医師会メディカルセンター）

講師：伊藤 機一（大東文化大学スポーツ・健康科学部 健康科学科 教授）

学術公開講演 1:女性特有のがん対策:子宮頸がんはHPVワクチンと検診で予防できる

11月28日（日）9:30～10:30 第1-2会場（市民ホール401-402）

司会：津田聡一郎（副実行委員長：ビー・エム・エル総合研究所）

講師：今野 良（自治医科大学附属さいたま医療センター 産婦人科 教授）

学術公開講演 2:女性特有のがん対策:乳癌早期発見のための検査

11月28日（日）10:30～11:45 第1-2会場（市民ホール401-402）

司会：前原 光江（事務局長：埼玉社会保険病院 臨床検査部）

講師：中野 聡子（川口市立医療センター 外科 副部長）

学術講演 1:女性特有のがん対策:子宮頸部細胞診におけるベセスダシステム

11月28日（日）13:45～15:00 第1-2会場（市民ホール401-402）

司会：金守 彰（埼臨技細胞検査研究班長：済生会川口総合病院 臨床検査科）

講師：是松 元子（埼玉社会保険病院 病理部）

学術講演 2:女性特有のがん対策:乳房超音波検査の基本手技とレポートの書き方

11月28日（日）15:00～16:15 第1-2会場（市民ホール401-402）

司会：岡田 茂治（副実行委員長：埼玉県立がんセンター 検査技術部）

講師：尾本きよか（自治医科大学附属さいたま医療センター
総合医学第1講座 准教授）

シンポジウム 1: 対応困難な要望とその対応を考える

11月28日(日) 9:00~11:00 第3会場(市民ホール403)

司会: 草間 昭俊(特定・特別医療法人慈泉会相澤病院臨床検査センター)

今村まゆみ(山梨県立中央病院 臨床検査部)

1 看護師としての対応

講師: 毒島由香里(富士重工業健康保険組合
総合太田病院 循環器病棟)

2 放射線科のクレームの種類とその対策

講師: 富田 博信(済生会川口総合病院 放射線科)

3 生理機能室担当技師としての対応

講師: 田邊 晃子(慶応義塾大学病院 中央臨床検査部)

4 管理職としての対応

講師: 矢澤 直行(昭和大学藤が丘病院 臨床検査部)

シンポジウム 2: 臨床化学検査の落とし穴 – みんなで共有しよう分析トラブルー

11月28日(日) 9:00~10:45 第4会場(市民ホール404)

司会: 中西 貴裕(東京都済生会中央病院 臨床検査科)

三木 隆治(獨協医科大学越谷病院 臨床検査部)

1 異常データ発生時の確認と対応について

講師: 澤田 威男(自治医科大学附属病院 臨床検査部)

2 分析装置使用状況についてのアンケート報告

講師: 茂木 孝一(深谷市・大里郡医師会
メヂカルセンター 検査課)

シンポジウム 3: 結核と非結核性抗酸菌症 – 過去・現在・未来ー

11月28日(日) 9:00~11:00 第5会場(6階602会議室)

司会: 荻野 毅史(済生会川口総合病院 臨床検査科)

金田 光稔(浦和医師会メディカルセンター 検査部)

1 抗酸菌検査の変遷と展望

講師: 霜島 正浩(ビー・エム・エル総合研究所)

2 抗酸菌症の診断と治療の展開

講師: 前崎 繁文(埼玉医科大学感染症科・
感染制御科 教授)

シンポジウム 4: B型肝炎ウイルス(HBV)検査の注意事項と問題点

11月28日(日) 09:00~11:10 第6会場(6階603会議室)

司会: 藤代 政浩(獨協医科大学越谷病院 臨床検査部)

庄司 和春(埼玉医科大学総合医療センター 中央検査部)

相坂由里子(自治医科大学附属さいたま医療センター 臨床検査部)

1 HBV検査項目に関するアンケート調査報告

講師: 齊藤 雅一(埼玉医科大学病院 中央検査部)

2 分析以前の問題点(採血管によるHBV偽高値化を中心に)

講師: 石沢 修二(昭和大学 薬学部)

3 B型肝炎ウイルス(HBV)の抗原抗体マーカーと遺伝子検査の関係

講師: 行正 信康(埼玉県立大学保健医療福祉学部

健康開発学科 准教授)

4 B型肝炎 一再活性の対策に向けたスクリーニング検査の重要性一

講師: 中山 伸朗(埼玉医科大学病院 消化器内科

肝臓内科 講師)

シンポジウム 5: 検体から多くの情報を読み取るために 一症例をとおして考えよう一

11月28日(日) 13:30~16:00 第3会場(市民ホール403)

司会: 山浦 久(さいたま市立病院 中央検査科)

猪浦 一人(埼玉県済生会栗橋病院 臨床検査科)

1 尿検査のここがポイント

講師: 宿谷 賢一(東京大学医学部附属病院 検査部)

2 髄液検査のここがポイント 一超・緊急検査=日当直での髄液検査一

講師: 保科ひづる(諏訪中央病院技術部 臨床検査科)

3 症例検討

講師: 川音 勝江(埼玉社会保険病院 臨床検査部)

小関 紀之(獨協医科大学越谷病院 臨床検査部)

宮内 優太(埼玉県済生会栗橋病院 臨床検査科)

奈良 豊(埼玉医科大学総合医療センター

中央検査部)

シンポジウム 6: 病理検査室作業環境改善 —ホルムアルデヒド管理濃度 0.1ppm への挑戦—

11月28日(日) 13:30~15:30 第4会場(市民ホール404)

司会: 小澤 英樹(株式会社ピーシーエルジャパン 病理細胞診センター)

佐藤 一穂(さいたま市民医療センター 検査科)

1 職場におけるホルムアルデヒドの製造または取り扱いに係る健康障害防止対策について

講師: 井上 栄貴(厚生労働省 労働基準局 安全衛生部
化学物質対策課 中央労働衛生専門官)

2 病理学会の取り組み

講師: 清水 秀樹(日本医科大学千葉北総病院 病理部)

3 埼玉県下病理施設における意識調査結果

—特定化学物質障害予防規則改正前後のアンケート調査から—

講師: 三鍋 慎也(防衛医科大学校病院 検査部病理)

4 管理濃度 0.1ppm クリアのための改善ポイント

講師: 上福元清隆(興研労働衛生コンサルタント事務所)

5 病理検査室現場から(検査センター)

講師: 小潟 利裕(株式会社ピーシーエルジャパン
病理細胞診センター)

6 病理検査室現場から(病院内検査室)

講師: 荻 真里子(北里研究所メディカルセンター病院
検査部病理)

7 東海大学病院病理検査室の対策

講師: 小山田裕行(東海大学医学部付属病院
病理検査技術科)

教育セミナー 1: 当直・日直における輸血検査 —血液型検査と交差適合試験—

11月27日(土) 12:00~13:30 第1会場(市民ホール401)

司会: 市川喜美子(東京医科大学病院 輸血部)

当院の当直・日直における輸血検査 —血液型検査と交差適合試験—

講師: 篠原 晴美(宇都宮社会保険病院 臨床検査部)

矢萩 直樹(千葉市立青葉病院 臨床検査科)

八木 和世(北里大学病院輸血センター)

教育セミナー 2: 腹部超音波検査の進め方

11月27日(土) 12:00~13:30 第2会場(市民ホール402)

司会: 有馬ひとみ(前橋赤十字病院 検査部)

講師: 山本 真一(東海大学医学部付属病院
臨床検査技術科)

教育セミナー 3:Reversed C.P.C –検査データの読み方–

11月27日(土) 12:00~13:30 第3会場(市民ホール403)

司会:柴田 真明(上尾中央総合病院 検査技術科)

講師:熊坂 一成(上尾中央総合病院 臨床検査科 科長)

回答者:永井 謙一(済生会川口総合病院 検査科)

川村利江子(埼玉医科大学病院 中央検査部)

大地 康文(さいたま市立病院 中央検査科)

安田 達明(上尾中央臨床検査研究所)

巖崎 達矢(東松山医師会病院 臨床検査科)

大塚 幸成(越谷市立病院 臨床検査科)

鈴木 智子(埼玉社会保険病院 臨床検査部)

堀口 大介(獨協医科大学越谷病院 臨床検査部)

教育セミナー 4:心電図の基礎と臨床 –認定心電検査技師資格更新指定講習会–

11月27日(土) 12:00~13:30 第4会場(市民ホール404)

司会:富原 健(帝京大学医学部附属病院 中央検査部)

家城 正和(埼玉県立がんセンター 検査技術部)

1 心筋電気生理現象の基礎 –より深い心電図理解のために–

講師:古川 泰司(帝京大学医学部 循環器内科 准教授)

2 心電図の臨床 –心電図での不整脈診断のポイント–

講師:池田 隆徳(杏林大学医学部 第二内科 教授)

教育セミナー 5:薬物乱用について考える

11月27日(土) 12:00~13:30 第5会場(6階602会議室)

司会:長崎 広美(浦和医師会メディカルセンター 検査部)

菊地 孝司(さいたま市健康科学研究センター)

1 埼玉県における違法薬物乱用への取り組みについて

講師:鈴木 博典(埼玉県保健医療部薬務課)

2 薬物分析について –乱用薬物分析を中心として–

講師:古川 克己(三菱化学メディエンス株式会社)

教育セミナー 6:病理検査

11月27日(土) 12:00~14:30 第6会場(6階603会議室)

司会: 沼上 秀博(埼玉県立がんセンター 検査技術部 病理)

渡辺 俊宏(上尾中央臨床検査研究所 病理学検査)

1 HE染色の原理

講師: 渡辺 明朗(サクラファインテックジャパン
株式会社)

2 免疫組織化学染色における簡単な抗原賦活理論

講師: 藤田 浩司(東京医科大学分子病理学)

3 病理・細胞診検査材料を用いた分子病理学的検査の現状と今後

講師: 甲斐田信嗣(株式会社 エスアールエル
羽村ラボラトリー 病理遺伝子検査課)

教育セミナー 7:神経生理検査で知っておきたい電気の基礎知識

11月27日(土) 12:00~13:30 第7会場(9階905会議室)

司会: 山本美津代(朝日生命成人病研究所附属丸の内病院 検査科)

講師: 佐野 仁(日本光電工業株式会社)

教育セミナー 8:血液細胞のささやきを聴き取ろうパートII -新WHO2008分類-

11月27日(土) 12:00~13:30 第8会場(9階906会議室)

司会: 羽鳥 浩司(埼玉社会保険病院 臨床検査部)

講師: 坂場 幸治(防衛医科大学校病院 検査部)

教育セミナー 9:血液疾患を対象とした遺伝子染色体検査の進め方と検査結果の解釈

11月27日(土) 16:45~18:15 第5会場(6階602会議室)

司会: 園山 政行(自治医科大学附属さいたま医療センター 臨床検査部)

1 造血器腫瘍の遺伝子検査

講師: 佐藤優実子(東京大学附属病院 検査部)

2 血液疾患を対象とした染色体検査の進め方と検査結果の解釈

講師: 松田 和之(信州大学医学部附属病院 臨床検査部)

3 血液疾患における外注検査

講師: 梶田 紀明(株式会社 エスアールエル)

教育セミナー 10:症例から考える脳波・誘発電位検査の留意点

11月27日(土) 16:45~18:15 第6会場(6階603会議室)

司会: 高橋 修(市川市リハビリテーション病院 臨床検査科)

講師: 高嶋 浩一(自治医科大学附属
さいたま医療センター 臨床検査部)

教育セミナー 11:腹部超音波検査レポートの書き方

11月27日(土) 16:45~18:15 第8会場(9階906会議室)

司会:中野 英貴(小張総合病院 生理検査科)

講師:白石 周一(東海大学医学部附属病院

臨床検査技術科)

教育セミナー 12:臨床検査と医療過誤 -採血を中心に-

11月28日(日) 11:00~12:00 第3会場(市民ホール403)

司会:仲野 浩(埼玉医科大学病院 中央検査部)

講師:蒔田 覚(仁邦法律事務所)

教育セミナー 13:血液センターの集約化

11月28日(日) 10:45~12:00 第4会場(市民ホール404)

司会:見城 千春(埼玉社会保険病院 臨床検査部)

1 検査部門 講師:榎本 隆行(埼玉県赤十字血液センター)

2 製造部門 講師:秋元 正浩(埼玉県赤十字血液センター)

3 供給部門 講師:松下 俊成(埼玉県赤十字血液センター)

教育セミナー 14:HIV 検査の現状と課題

11月28日(日) 11:10~12:00 第6会場(6階603会議室)

司会:佐野 悦子(浦和医師会メディカルセンター 検査部)

講師:福武 勝幸(東京医科大学

臨床検査医学講座 主任教授)

教育セミナー 15:動物由来感染症 -獣医療の現場から診たペットとヒトの感染症-

11月28日(日) 13:30~15:00 第5会場(6階602会議室)

司会:荻野 毅史(済生会川口総合病院 臨床検査科)

阿保 一茂(さいたま赤十字病院 検査部)

講師:兼島 孝(みずほ台動物病院・

琉球動物医療センター 院長)

日臨技精度保証事業 伝達研修会

11月28日(日) 13:30~15:00 第6会場(6階603会議室)

司会:荒木 秀夫(日本大学医学部附属板橋病院 臨床検査部)

講師:大澤 進(九州大学大学院医学研究院・

保健学部門 教授)

プログラムⅡ（一般演題・学生演題・コマーシャル演題）

微生物 11月27日(土)12:00~12:40

第10会場(第2展示場)

座長:内田 幹(山梨大学医学部附属病院)

- 1 小児鼻腔検体分離時におけるバシトラシンディスクとコリスチン/ナリジクス酸ディスク使用の有用性
山本 芳尚¹⁾、小島 美幸²⁾、新保 博美²⁾、定本 伸也²⁾、奥住 捷子³⁾
菱沼 昭⁴⁾
¹⁾獨協医科大学病院臨床検査部、²⁾栄研化学株式会社、³⁾獨協医科大学病院感染防止対策課
⁴⁾獨協医科大学臨床検査医学
- 2 茨城県南部で血液・髄液から分離した *Listeria monocytogenes* の微生物学的特徴
浦田 輝夫¹⁾、人見 重美²⁾
¹⁾総合病院取手協同病院、²⁾筑波大学附属病院感染症科
- 3 髄液および血液から *Pasteurella multocida* を検出した1例
曾木 広信、林 陽子、牧 俊一、森田 淑子、阿保 一茂、江原 進
長瀬 義孝、山崎 堅一郎
さいたま赤十字病院
- 4 過去5年間の河北総合病院における血液培養分離状況
野村 秀和、大瀧 友香、鷺尾 厚博
河北総合病院中央検査科
- 5 当院の血液培養検査における過去3年間の陽性菌検出状況 -複数セット採血で検出率は向上したのか?-
瀧沢 紀子、菊池 充、浦田 輝夫、澤田 恵美子
総合病院取手協同病院

微生物 11月27日(土)12:40~13:20

第10会場(第2展示場)

座長:小林 訓(佐久市立国保浅間総合病院)

- 6 新たなB群溶血性レンサ球菌スクリーニング色素産生培地の検討
小山 和幸、長峯 幸恵、川上 啓子、田中 哲也
水戸赤十字病院
- 7 当検査室における膣分泌物からのGBS(B群溶連菌)検出状況 -過去4年間の推移(2006年~2009年)-
金田 光稔、長崎 広美、田崎 恵、神山 清志
浦和医師会メディカルセンター

- 8 イノキュレータΣ192及びDPS MIC192/ID(栄研)の使用経験
後藤 まゆ子、穴原 美子、江端 晃子、星野 渉、矢島 亜紀、金子 雄宇太、飯田 眞佐栄
上尾中央医科グループ上尾中央臨床検査研究所
- 9 イノキュレータΣ192及びDPS MIC192/ID(栄研)によるESBL・MBL検出機能の検討
穴原 美子、江端 晃子、後藤 まゆ子、星野 渉、矢島 亜紀、金子 雄宇太、飯田 眞佐栄
上尾中央医科グループ上尾中央臨床検査研究所
- 10 当院における小児呼吸器感染症起炎ウイルス迅速抗原検査と細菌培養検査結果の検討
江口 寿美枝¹⁾、渡部 玲伊子¹⁾、清水 美百¹⁾、松野 智¹⁾、矢田谷 浩一¹⁾、宮本 豊一²⁾
桜井 庸晴²⁾
¹⁾三菱化学メディエンス川崎市立多摩病院ラボ検体検査室、²⁾川崎市立多摩病院臨床検査部

微生物 11月27日(土)16:30~17:10

第10会場(第2展示場)

座長:村田 正太(千葉大学医学部附属病院)

- 11 多剤耐性緑膿菌(MDRP)選択分離培地の検討
野宮 沙織¹⁾、山本 由香梨¹⁾、閑歳 洗平¹⁾、大島 利夫¹⁾、内田 宣邦²⁾
¹⁾東海大学医学部附属病院臨床検査技術科、²⁾関東化学株式会社
- 12 *Bacillus cereus*が髄膜炎の起炎菌となった1例
栗原 真澄、古村 絵理、山田 智、高木 理江、戸口 明宏、小林 幸子、後藤 郁恵
大塚 喜人
医療法人鉄蕉会亀田総合病院
- 13 *Clostridium difficile* D-1抗原とイムノクロマト法による検査試薬の評価
山本 優美子¹⁾、樋口 晶子¹⁾、小川 裕子¹⁾、高橋 祥慈¹⁾、奥田 勲¹⁾、荘司 路²⁾
¹⁾独立行政法人国立病院機構東京医療センター、²⁾独立行政法人国立がん研究センター中央病院
- 14 レジオネラ症感染源調査における*Legionella pneumophila*血清群の多様性
黒澤 肇、斎藤 美香、塩原 正枝
群馬県衛生環境研究所
- 15 当院においてB群レンサ球菌が検出された新生児・乳児についての臨床的検討
前田 友子、石井 千晴、大久保 宏子、五十里 博美、福田 安子
越谷市立病院

座長:荻野 毅史(済生会川口総合病院)

- 16 当院における出産時G B Sスクリーニング検査での検査結果とその臨床的意義
五十里 博美、石井 千晴、大久保 宏子、前田 友子、福田 安子
越谷市立病院
- 17 当院で経験した *Pasteurella multocida* による膿胸の1例
佐野 恵、辻 智恵子、佐藤 香里、並木 薫
埼玉県済生会栗橋病院
- 18 当院における5年間の血液培養の分離菌頻度について
佐藤 香里、辻 智恵子、佐野 恵、並木 薫
埼玉県済生会栗橋病院
- 19 血液培養 (BACTEC Myco/F 培養ボトル) から *Mycobacterium avium* を検出した1症例
中野 佐知江、五味渕 英之、飯野 昌則、打田 孝枝、前原 光江
埼玉社会保険病院
- 20 血液培養より検出した *Mycobacterium peregrinum* の1症例
藤田 朋浩、中谷 潤、鰐渕 康一郎、廣瀬 米志
北里研究所メディカルセンター病院

座長:古畑 健司(株 ビー・エム・エル総合研究所)

- 21 当院における抗酸菌検出状況
油井 明美、小野 由可、鶴原 日登美、竹澤 理子、土屋 智之、遠田 栄一
社会福祉法人三井記念病院
- 22 CML患者の血液培養より検出された *Mycobacterium abscessus* の1症例
濱本 隆明、直井 健治、結城 篤、河上 翔、坂場 幸治
防衛医科大学校病院
- 23 血液培養から *Clostridium tertium* を分離した1例
牧 俊一、曾木 広信、林 陽子、森田 淑子、阿保 一茂、江原 進
長瀬 義孝、山崎 堅一郎
さいたま赤十字病院

24 コバス TaqMan MAI およびタックマン マイコ用検体前処理試薬添加剤セット「SOL-M」の有用性
直井 健治、濱本 隆明、結城 篤、河上 翔、坂場 幸治
防衛医科大学校病院

25 抗MRSA 薬MIC 値測定における菌液調整の影響について
大菅 淳、久田 明史、山本 由香梨、山本 美紀、安住 郁、大島 利夫
東海大学医学部附属病院臨床検査技術科

微生物 11月28日(日)11:20~11:52

第10会場(第2展示場)

座長:永野 栄子(獨協医科大学越谷病院)

26 *Staphylococcus* 属におけるバンコマイシン薬剤感受性試験について
細谷 隆一、四方田 幸恵、高橋 美紀、溝口 美祐紀、佐藤 絢子、天谷 初夫、村上 正巳
国立大学法人群馬大学医学部附属病院

27 *Neisseria gonorrhoeae* に関する薬剤感受性の検討
上原 辰也、鈴木 ひとみ、押鐘 こず江、木屋 善之、遠藤 秀一、古畑 健司、霜島 正浩
株式会社ビー・エム・エル総合研究所

28 当院のNICU、GCUにおける8年間のサーベイランスの動向
岩井 智世¹⁾、太田和 秀一¹⁾、川村 公彦¹⁾、宮原 行雄¹⁾、坂木 晴世²⁾
¹⁾独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院研究検査科、²⁾同医療安全管理室感染管理看護師

29 群馬県における2009/10シーズンのインフルエンザ発生動向
塩原 正枝¹⁾、斎藤 美香¹⁾、吉住 正和¹⁾、黒澤 肇¹⁾、長井 綾子²⁾
¹⁾群馬県衛生環境研究所、²⁾群馬県立小児医療センター

一般 11月28日(日)10:00~10:32

第10会場(第2展示場)

座長:河野 秀幸(水戸済生会総合病院)

30 尿沈渣において悪性リンパ腫細胞を認めた1症例
村山 智美、三橋 太、小林 紘士、日ノ澤 進一郎、飯野 幸永、本間 博
日本医科大学付属病院中央検査部

31 尿沈渣検査によってクリプトコッカス症の早期診断に至った一症例
菊地 雅寛、田中 敏典、高橋 純子、五十畑 清貴、羽角 安夫
佐野厚生農業協同組合連合会佐野厚生総合病院

- 32 当院における赤痢アメーバ検査の推移と検出状況
山浦 久¹⁾、塚田 眞知子¹⁾、大地 康文¹⁾、中村 正樹¹⁾、佐久間 まみ子¹⁾、花見 奈美²⁾
¹⁾さいたま市立病院、²⁾自宅

- 33 当院における過去3年間のアメーバ赤痢の検出状況
加地 大樹、高橋 弘志、秋倉 史、岩間 暁子、嶋野 美和、足達 由佳里
君津中央病院

一般 11月28日(日)10:32~11:12

第10会場(第2展示場)

座長: 神山 恵多(群馬大学医学部附属病院)

- 34 尿検体混和手技についての検討
天野 陽生、浦田 香代美
社会保険山梨病院

- 35 経年数別にみた体腔液細胞数算定結果の比較
脇田 満¹⁾、飯塚 桂子²⁾、植山 千加³⁾、山里 勝信⁴⁾、福田 嘉明⁵⁾、横山 貴⁶⁾
米山 正芳⁷⁾
¹⁾順天堂大学医学部附属順天堂医院、²⁾(株)SLC 検査室、³⁾立正佼成会附属佼成病院
⁴⁾順天堂大学医院、⁵⁾日大板橋病院、⁶⁾東京女子医科大学病院、⁷⁾杏林大学病院

- 36 尿蛋白測定試薬「マイクロ TP-AR (2)」の検討
石原 澄江、大島 真二、鈴木 智子、小山 博史、福田 秀夫、前原 光江
埼玉社会保険病院

- 37 マイクロ TP-AR 改良試薬による尿中及び髄液中の蛋白定量についての基礎検討
山本 雄三¹⁾、宮上 瞳²⁾、鈴木 亨宏²⁾、小出 隆志²⁾、麻生 綱男²⁾、棟方 伸一³⁾
狩野 有作³⁾
¹⁾(株)エスアールエル北里東ラボ、²⁾(株)エスアールエル検査管理部、³⁾北里大学病院臨床検査部

- 38 気管支鏡検査検体から Strobilidium の寄生と診断
海老沢 三枝子¹⁾、内海 啓子²⁾、松岡裕之³⁾
¹⁾茨城県立中央病院茨城県地域がんセンター医療技術部臨床検査科、²⁾茨城県立中央病院呼吸器内科、
³⁾自治医科大学感染・免疫学講座医動物学部門

座長:原島 典子(埼玉医科大学総合医療センター)

39 当院 ICU栄養サポートチーム (NST) の活動の検証および今後の課題

風間 香里¹⁾、矢澤 淳子¹⁾、三木 隆治¹⁾、中島 あつ子¹⁾、柴崎 光衛¹⁾、春木 宏介¹⁾
山田 浩二郎²⁾

¹⁾獨協医科大学越谷病院、²⁾同救急医療科

40 体成分分析装置 InBody S20 の基礎的検討 第1報-NST導入への有用性-

奥山 真麗英、吉田 理絵、武藤 吉輝、家城 正和、田中 良子、岡田 茂治、長谷川 省一
埼玉県立がんセンター

41 体成分分析装置 InBody S20 の基礎的検討 第2報-測定条件による検査結果への影響-

吉田 理絵、奥山 真麗英、大滝 加奈江、佐藤 真吾、田中 良子、岡田 茂治、長谷川 省一
埼玉県立がんセンター

42 当院での病棟採血の現状

落合 仁美、佐藤 祥子、成田 慎治、相田 友梨、市川 麻里子、上原 めぐみ、並木 薫
埼玉県済生会栗橋病院

43 毛細管採血による微量化でのNICU協力

小田川 祥子、坂田 彩子、宮田 清、岩本 猛住、阿部 裕司、橋口 恵子、萩原 久子
春日部市立病院

座長:並木 薫(埼玉県済生会栗橋病院)

44 当院の救急蘇生の取り組みと現状について -臨床検査技師の関わりについて-

大沢 秀吉、瀬瀬 真有美、山口 睦弘
労働者健康福祉機構千葉労災病院

45 当院に於けるメディカル部門の組織編成

大橋 初美、岩渕 敏子、星野 里沙、鹿沼 あゆみ、大畑 紀子、小沼 利光
東京都済生会向島病院

- 46 当院の糖尿病チーム医療における臨床検査技師の役割
 谷塚 千賀子、小関 紀之、相澤 梨恵、鎌田 泰至、三木 隆治、奥住 裕二、柴崎 光衛
 春木 宏介
 獨協医科大学越谷病院
- 47 糖尿病教育入院クリニカルパスにおける当院臨床検査技師の関わり
 鹿沼 あゆみ、大橋 初美、岩渕 敏子、星野 里沙、大畑 紀子、小沼 利光
 東京都済生会向島病院
- 48 当検査室における糖尿病教室の活動状況 -電子カルテを使用した指導報告の導入-
 伊藤 ゆづる、岡村 邦彦、長野 美恵子、西谷 武
 NTT 東日本関東病院臨床検査部

チーム医療 11月28日(日)13:30~14:10

第10会場(第2展示場)

座長:遠藤 敏彦(川口市立医療センター)

- 49 糖尿病教育入院患者に対する質問紙調査を用いた教育効果評価の試み
 安部川 裕美、白井 厚子、廣瀬 真裕美、日達 綾子、津田 麻紀、矢島 有佳、渡辺 実
 佐藤 義雄
 独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院
- 50 糖尿病教育入院指導において「血糖認識トレーニング」が有効であった1例
 北爪 洋介、船津 知彦、竹内 恵子
 社会保険群馬中央総合病院
- 51 持続血糖モニタの使用経験について -SMBG を治療に活かすために-
 植木 佳代子、秋山 恵美、中山 美伸、藤原 雅治
 (財) 東京都保健医療公社豊島病院
- 52 ニプロスタットストリップ XP の使用経験
 輿石 早紀、小沢 恵里子、浅川 萌、中山 明美、窪田 静枝、澤登 利枝、清水 英一
 山梨県立中央病院
- 53 当院糖尿病療養支援チーム主催による糖尿病フェアを終えて
 大橋 真紀子、鈴木 香織、小倉 正安、鰐渕 康一郎、中野 陽子、廣瀬 米志
 北里大学北里研究所メディカルセンター病院

座長:佐久間 まみ子(さいたま市立病院)

- 54 電子カルテを利用した異常値迅速報告体制についての取り組み -異常値報告から診療側の結果確認に対する保証まで-
- 古賀 信二¹⁾、須永 佳純¹⁾、渡邊 明日香¹⁾、諏訪部 桂¹⁾、美原 盤²⁾
¹⁾脳血管研究所美原記念病院検査科、²⁾同神経内科
- 55 検査情報係問い合わせ窓口業務改善の取り組み
- 白石 淑子、高橋 豊、青木 和雄
長野赤十字病院
- 56 リスクマネジメントにおける検査課の取り組み
- 和泉 沙希子、宮下 百代、石坂 泰子、井田 和利
群馬県立小児医療センター
- 57 当直時におけるヒヤリ・ハットの取り組み
- 高橋 雅之、猪浦 一人、並木 薫
埼玉県済生会栗橋病院
- 58 外部委託検査項目の院内導入における利益率向上
- 岩渕 敏子、大橋 初美、星野 里沙、鹿沼 あゆみ、大畑 紀子、小沼 利光
東京都済生会向島病院

座長:菅野 光俊(信州大学医学部附属病院)

- 59 東ソー社製 HbA1c 測定装置 HLC723 - G9 の基礎性能評価
- 山口 純也、永井 謙一、齋藤 翔子、河野 政子、森 作治
済生会川口総合病院
- 60 日立 7180 形自動分析装置による HbA1c 測定の評価
- 櫻井 奈津紀、木元 浩樹、森田 有紀、早坂 拓哉、針ヶ谷 沙知、根本 智美、近藤 紅美
濱田 昇一
上尾中央医科グループ医療法人一心会伊奈病院
- 61 汎用自動分析装置 BM 6 0 7 0 における CH50 3 試薬の比較検討
- 下津 留美、西田 尚子、金子 幸江、鳴海 武長、高木 豊、飯野 幸永、本間 博
日本医科大学付属病院中央検査部

62 OCPC 法による血清カルシウム測定におけるタイムコースの解析

鈴木 優治

埼玉県立大学保健医療福祉学部

63 グルコース専用 POCT 機器「スタットストリップエクスプレス」と SMBG 用機器との性能比較

相澤 梨恵、小関 紀之、鎌田 泰至、藤代 政浩、柴崎 光衛、春木 宏介

獨協医科大学越谷病院

臨床化学 11 月 27 日(土)17:10~17:50

第 11 会場(第3展示場)

座長: 茂木 孝一(深谷市・大里郡医師会メヂカルセンター)

64 新規 CK-MB 活性測定試薬「アキュラスオート CK-MB Mt0」の基礎的検討と現行法 Dimension RXL による CK-MB Mass 法との比較

佐藤 美里

日本医科大学付属病院中央検査部

65 MtCK 活性阻害抗体を用いた CK-MB 測定試薬「アキュラスオート CK-MB Mt0」の検討

三木 隆治、鎌田 泰至、藤代 政浩、柴崎 光衛、春木 宏介

獨協医科大学越谷病院

66 自動分析装置の日常点検時におけるトラブル対策 -しまった! やっちゃったよ!! こんな時どうする?-

神山 清志、長谷川 隆、佐野 悦子、棚澤 真樹、中西 久江、鈴木 幸恵、宮崎 哲郎

浦和医師会メディカルセンター

67 遠心分離後に分離剤上部に残存する成分が各種測定値に与える影響

-血球由来成分を対象とした調査-

棚澤 真樹、宮崎 哲郎、鈴木 幸恵、中西 久江、佐野 悦子、桑野 東子、長谷川 隆

神山 清志

浦和医師会メディカルセンター

68 異常高値検体の結果測定域予測による迅速測定手法

高木 豊、鳴海 武長、山下 純一、佐藤 美里、柴田 泰史、飯野 幸永、本間 博

日本医科大学付属病院中央検査部

座長:三木 隆治(獨協医科大学越谷病院)

69 キャリブレーターを選択 -水溶性 or 血清ベース-

宮地 達智、神長 菜美子、大森 史也、上野 慎、小暮 憲幸、寺澤 智彦、岸 隆雄
(株) 戸田中央臨床検査研究所

70 カートリッジ型血液ガス分析装置 ABL90FLEX 基礎的検討

山下 純一、佐藤 美里、鳴海 武長、玉手 ひさ子、高木 豊、飯野 幸永、本間 博
日本医科大学付属病院中央検査部

71 臨床検査に影響する純水中の不純物と EDI 方式純水装置 Elix-UV①

(CM) 金沢 旬宣

日本ミリポア株式会社 ラボラトリーウォーター事業本部 マーケティング部

72 臨床検査に影響する純水中の不純物と EDI 方式純水装置 Elix-UV②

(CM) 金沢 旬宣

日本ミリポア株式会社 ラボラトリーウォーター事業本部 マーケティング部

座長:久保田 しづえ(伊勢崎市民病院)

73 皮下出血と APTT 延長が診断の糸口となった後天性血友病 A の一症例

石渡 敏、老後 聡美、地田 信子、山下 真寛、圓田 和人、岸 隆雄
(株) 戸田中央臨床検査研究所

74 末梢血液像にて早期診断に繋がった 13 トリソミーの 1 例

兵藤 悠美子、若井 公子、長井 綾子、井田 和利
群馬県立小児医療センター

75 Dutcher body を認めた原発性マクログロブリン血症の一症例

岡安 幸子、木樽 菜摘、森上 洋子、長谷川 恵子、百瀬 麻美、小島 徳子
上尾中央医科グループ上尾中央総合病院

76 肝脾 T 細胞リンパ腫(hepatosplenic T-cell lymphoma;HSTL) の一例

星 孝夫、川内 沙織、渡邊 一儀、堀口 大介、富田 順子、奥住 裕二、柴崎 光衛
春木 宏介
獨協医科大学越谷病院臨床検査部

座長:沼波 亮一(株式会社 日立製作所 ひたちなか総合病院)

- 77 末梢血に腫瘍細胞が出現しなかったBリンパ芽球性白血病の一例
米田 亜希¹⁾、松崎 恵理子¹⁾、山岸 依里子¹⁾、里美 彩¹⁾、井波 美穂¹⁾
滝川 和孝¹⁾、高柳 美伊子¹⁾、小原 直²⁾
¹⁾筑波メディカルセンター病院、²⁾筑波大学病院
- 78 維持療法中にサイトメガロウイルス網膜炎をきたしたT細胞性急性リンパ性白血病(T-ALL)の一例
若井 公子、兵藤 悠美子、長井 綾子、井田 和利
群馬県立小児医療センター
- 79 多項目自動血球分析装置(XTシリーズ)のFlagsで検知不能な凝固検体例
原 誠則、藤原 朗博、八高 絵美、吹貝 拓也、安住 貴子、富田 耕平、中川 麻由美
横山 佐知子
壮幸会行田総合病院
- 80 自動血球分析装置による好酸球の測定結果と目視による結果が乖離した1症例
上原 めぐみ、佐藤 祥子、成田 慎治、落合 仁美、相田 友梨、市川 麻里子、並木 薫
埼玉県済生会栗橋病院

座長:根岸 永和(さいたま赤十字病院)

- 81 トロンボレルSの基礎的検討
相田 友梨、佐藤 祥子、成田 慎治、落合 仁美、市川 麻里子、上原 めぐみ、並木 薫
埼玉県済生会栗橋病院
- 82 塗抹乾燥標本におけるEsterase-Luxol fast blue 三重染色の試み
徳竹 孝好、馬場 ひさみ、中田 昭平、野崎 美智江
長野赤十字病院
- 83 血液ガス分析装置Cobas b221を使用した強乳び検体のHGB測定の有用性
市川 美由紀¹⁾、高瀬 由美子¹⁾、川村 利江子¹⁾、三志奈 賢司¹⁾、塩田 洋子¹⁾、斉藤 妙子¹⁾
浅田 留美子²⁾、池淵 研二²⁾
¹⁾埼玉医科大学病院中央検査部、²⁾埼玉医科大学病院臨床検査医学講座
- 84 群馬大学病院血液検査システムの運用
井上 まどか、高橋 克典、神山 知沙子、早川 昌基、静 怜子、天谷 初夫、村上 正巳
国立大学法人群馬大学医学部附属病院

座長:平賀 久代(JA 長野厚生連 佐久総合病院)

- 85 自己抗体(抗C、抗e)と同種抗体(抗E、抗c)が共存したAIHA患者の一症例
藤井 あさみ、大木 浩子、今井 厚子、野呂 光恵、原島 典子
埼玉医科大学総合医療センター
- 86 抗Chido抗体の稀な1症例を経験して
高橋 嘉明
八王子山王病院
- 87 抗D+C+G抗体を確認できた症例-複合抗体である抗Gを証明できた一症例-
菅野 直子、小林 美佳、小幡 隆、小野崎 文子、大槻 郁子、進藤 聖子、中木 陽子
岸野 光司
自治医科大学附属病院輸血・細胞移植部
- 88 当院における「異なる時点での2検体による血液型確定」への対応
大内 崇徳、小山田 和子、江尻 裕子、松田 佳之、金沢 嘉文、佐々木 伸夫
(株)日立製作所日立総合病院

座長:武関 雄二(自治医科大学附属さいたま医療センター)

- 89 当院における輸血療法委員会での取り組み-10年間の活動と今後の課題-
青山 望、山口 真澄、佐野 文紀、今井 厚
神奈川県厚生連相模原協同病院医療技術部臨床検査室
- 90 当院における血液製剤廃棄削減に対する取り組み
昆 雅士、中西 貴裕、大野 亜衣、武田 裕子、内山 和義
東京都済生会中央病院
- 91 PC-HLA 供給患者におけるHLA適合献血者数について
岡崎 晃士、永守 拓哉、田原 綾乃、二上 由紀、小林 洋紀、加藤 尚美、井上 進
森田 庄治
埼玉県赤十字血液センター

座長:草刈 宏有(聖マリアンナ医科大学病院)

92 乳頭腫との鑑別に苦慮した気管支扁平上皮癌の一例

小林 幸弘、百瀬 正信、下條 康代、上原 弥生、窪田 恵夢、高橋 正臣、村田 和也
熊谷 俊子

信州大学医学部附属病院臨床検査部

93 軟口蓋に発生した顆粒細胞腫の1例

岡田 麻里¹⁾、大木 亜弥¹⁾、堀井 梨恵¹⁾、穴原 賢治¹⁾、小島 徳子¹⁾、長田 宏巳²⁾

¹⁾上尾中央医科グループ上尾中央総合病院、²⁾同病理診断部

94 穿刺吸引細胞診(FNA)で診断し得た男性乳頭部乳癌の一例

星川 里美、尾身 麻理恵、細井 京子、富沢 一与、萩原 勉、林 繁樹、伊藤 秀明
前橋赤十字病院

95 液状細胞診(L.B.C)標本作製の新たな試み

高橋 久志、中村 光男
エフエムエルラボトリー

96 YM式液状検体用固定液で固定した液状検体におけるセルブロック作製の検討

高橋 肇、渡邊 俊宏、飯田 眞佐栄
上尾中央医科グループ上尾中央臨床検査研究所

座長:芦沢 正美(山梨県立中央病院)

97 脱水、脱脂操作に関する現状と改善

二ツ橋 雄一、日下 卓万、小澤 英樹
(株)ピーシーエルジャパン病理細胞診センター

98 脳組織標本作製過程における脱脂の検討

田野 光敏¹⁾、青柳 真一¹⁾、諏訪部 桂¹⁾、高尾 昌樹²⁾、吉田 洋二³⁾、美原 盤⁴⁾

¹⁾脳血管研究所美原記念病院検査科病理検査室、²⁾同神経内科神経難病・認知症部門

³⁾同神経難病・認知症部門、⁴⁾同神経内科

99 乳腺組織における粘着フィルムを用いた凍結切片作製法

田村 大我、稲山 美智、丸山 依里、下地 いほ乃、佐藤 一穂
さいたま市民医療センター

100 *Helicobacter pylori* 染色法の比較検討

渡邊 志津子、津田 祥子、古谷地 玲子、矢野 千咲、狩野 充治、森下 朱美、小林 美波
昭和大学病院

101 抗 FUS 抗体を用いた中枢神経系における免疫組織化学的染色の試み

青柳 真一¹⁾、田野 光敏¹⁾、諏訪部 桂¹⁾、高尾 昌樹²⁾、吉田 洋二³⁾、美原 盤⁴⁾
¹⁾脳血管研究所美原記念病院検査科病理検査室、²⁾同神経内科神経難病・認知症部門、
³⁾同神経難病・認知症部門、⁴⁾同神経内科

102 アミロイドーシス診断における免疫染色の有用性に関する検討

入江 寿美子、草間 すおみ、熊田 香織、佐藤 奈緒美、上地 政己、松本 信雄、渡辺 光男
大塚 喜人
医療法人鉄蕉会亀田総合病院臨床検査部

病理 11月27日(土)17:58~18:38

第12会場(第4展示場)

座長:小野寺 清隆(千葉大学医学部附属病院)

103 血管内大細胞型リンパ腫について -1 剖検例の報告と当院で経験した9例の検討-

草間 すおみ、板橋 匠美、入江 寿美子、熊田 香織、佐藤 奈緒美、上地 政己、渡辺 光男
大塚 喜人
医療法人鉄蕉会亀田総合病院臨床検査部

104 IgA 腎症と紫斑病性腎炎の鑑別 -蛍光・電顕からのアプローチ-

飛田野 清美、本望 一昌、二階堂 貴章、櫻井 達夫
自治医科大学附属病院病理診断部

105 CKD(Chronic Kidney Disease)早期発見の必須アイテム -電子顕微鏡-

櫻井 達夫、二階堂 貴章、飛田野 清美
自治医科大学附属病院病理診断部

106 当施設におけるホルムアルデヒド対策

上田 有美、大河内 良美、中門 美和、飯泉 幸子、植田 光夫、石黒 和也、高柳 美伊子
筑波メディカルセンター病院

107 CJD の剖検指針と本院での経験例 -臨床検査技師の立場から-

二階堂 貴章、小瀬川 順幸、本望 一昌、郡 俊勝、櫻井 達夫
自治医科大学附属病院病理診断部

座長:岡 政行(船橋市立医療センター)

108 成人の三心房心が疑われた一例

植松 由美子、風間 健美、中村 麗

上尾中央医科グループ医療法人社団協友会船橋総合病院

109 著明に拡大した左バルサルバ洞により狭心症を生じた一例

長峯 幸子¹⁾、堀江 一夫¹⁾、中村 浩司¹⁾、小林 伸子¹⁾、高柳 美伊子¹⁾、瀬尾 由広²⁾文蔵 優子³⁾、野口 祐一³⁾¹⁾筑波メディカルセンター病院、²⁾筑波大学附属病院循環器内科³⁾筑波メディカルセンター病院循環器内科

110 拡張型心筋症で生じた左室内血栓が原因で急性心筋梗塞を生じた一例

土倉 めぐみ、平田 忍、宮島 喜文

県立木曽病院

111 中内膜複合体厚と LDL コレステロール/HDL コレステロール比の比較検討

川田 美紀¹⁾、阿部 るみ子¹⁾、塚原 由美子¹⁾、鈴木 裕子¹⁾、松本 諒子¹⁾、小暮 憲幸²⁾岸 隆雄²⁾¹⁾戸田中央総合病院、²⁾(株)戸田中央臨床検査研究所

座長:諏訪部 桂(脳血管研究所附属美原記念病院)

112 当院健診センターにおける腹部超音波検査の現状について

小川 綾乃¹⁾、戸田 玲子¹⁾、寺田 美紀子¹⁾、福本 恵美¹⁾、中込 優¹⁾、白石 周一¹⁾石川 順子²⁾¹⁾東海大学医学部附属病院臨床検査技術科、²⁾東海大学八王子病院中央臨床検査科

113 透析患者における腎細胞癌の超音波所見の検討

福島 藍、山本 真一、戸田 玲子、松田 津久美、藤井 亜希子、白石 周一

東海大学医学部附属病院臨床検査技術科

114 高度水腎症を伴った腎盂癌の一例

大熊 理加¹⁾、遊佐 洋子¹⁾、小林 陽子¹⁾、岡島 菜穂子¹⁾、松長 亜紗子¹⁾、大熊 潔²⁾¹⁾財団法人東京都医療保健協会練馬総合病院臨床検査科、²⁾慶応義塾大学医学部放射線診療科

115 腹腔鏡胆嚢摘出術後の残存胆嚢管結石を経験した1例

加賀谷 範芳、田原 真琴、田島 亜弥、津田 美穂、村上 結香、高橋 信行、比良 めぐみ
後藤 正寿

湘南鎌倉総合病院

116 造影超音波検査が有用であった肝細胞癌の1症例

塚原 晃¹⁾、岸 隆雄²⁾

¹⁾戸田中央総合病院、²⁾(株)戸田中央臨床検査研究所

生理(超音波) 11月28日(日)11:12~11:44

第12会場(第4展示場)

座長:野尻 誠(足利赤十字病院)

117 当院乳腺エコーにおける構築の乱れの検討

渡辺 智美¹⁾、小松 由佳¹⁾、石栗 一男²⁾、東 靖弘³⁾

¹⁾上尾中央医科グループ蓮田一心会病院検査科、²⁾同放射線科、³⁾同乳腺外科

118 乳腺原発悪性リンパ腫の2症例

矢部 真紀¹⁾、中嶋 純子¹⁾、木村 さゆり¹⁾、山田 洋子¹⁾、高瀬 万由美¹⁾、森永 正二郎²⁾
高橋 路子³⁾、半田 誠⁴⁾

¹⁾北里研究所病院臨床検査科、²⁾北里研究所病院病理科、³⁾北里研究所病院内科

⁴⁾慶応義塾大学輸血・細胞療法部

119 乳腺原発悪性リンパ腫の2症例

吉田 典子、遠藤 智美、丸山 陽介、野間 納生、五十嵐 ゆかり、横尾 春奈、渡辺 通
上尾中央医科グループ吉川中央総合病院

120 関節リウマチ患者における関節超音波検査の有用性について

東 佳美、金村 美絵子、立石 さとみ、榊原 外江、前原 光江

埼玉社会保険病院

生理(循環器・呼吸) 11月28日(日)13:30~14:02

第12会場(第4展示場)

座長:福島 浩二(東海大学医学部付属病院)

121 心筋梗塞における心肺運動負荷試験評価について -心機能、冠動脈病変との関連性を中心に-

三浦 伶奈、仲 広志、今井 厚

神奈川県厚生連相模原協同病院医療技術部臨床検査室

- 122 Doxorubicin(ADR-アドリアシン) の乳がんにおけるQT/QTc 間隔を指標とした心毒性評価
秋元 成美¹⁾、黒沼 俊光²⁾、山田 清春²⁾
¹⁾独立行政法人国立がん研究センター東病院、²⁾国立がんセンター東病院
- 123 ホルター心電図電極エクセローデ W における解析時間の検討
小沼 善明、内山 健二、澤 朋良、瀧沢 義教、柴崎 光衛、春木 宏介
獨協医科大学越谷病院
- 124 信州大学医学部附属病院受診者に潜在する閉塞性換気障害患者の実態調査について
村田 和也¹⁾、小松 美保¹⁾、加藤 瞳¹⁾、浅和 照子¹⁾、熊谷 俊子¹⁾、伊井 亜佐美²⁾
¹⁾信州大学医学部附属病院臨床検査部、²⁾上伊那生協病院

生理(神経) 11月28日(日)14:02~14:34

第12会場(第4展示場)

座長:木崎 直人(杏林大学医学部附属病院)

- 125 予後不良の脳波像から回復した新生児の一例
武田 倫明、石井 みゆき、武下 草生子、宮島 栄治
公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター
- 126 手根管症候群とギオン管症候群が合併した一症例
秋葉 新、田島 桂子、柳田 浩己、高橋 朋子、芳賀 徹、嶋田 勇
自治医科大学附属病院臨床検査部
- 127 末梢神経伝導検査で遅発電位を認め、経過観察により消失した一症例
谷口 紀子、三城 聡宏、大矢 静、高梨 美穂、川野 智美、野本 隆之、小島 徳子
上尾中央医科グループ上尾中央総合病院
- 128 糖尿病における知覚閾値測定の意義
高嶋 浩一、桐生 ななえ、浅子 瑞穂、関口 由衣、湯舟 憲雄、稲葉 信夫
尾本 きよか 河野 幹彦
自治医科大学附属さいたま医療センター臨床検査部

生理(神経) 11月28日(日)14:34~15:14

第12会場(第4展示場)

座長:高梨 淳子(北里研究所メディカルセンター病院)

- 129 当院における新生児聴覚スクリーニング検査(自動ABR)の現状とその有用性について
鍛冶田 久美子¹⁾、埜村 直美¹⁾、渡辺 由美¹⁾、高橋 友絵¹⁾、塚原 晃²⁾、岸 隆雄³⁾
¹⁾戸田中央産院、²⁾戸田中央総合病院、³⁾(株)戸田中央臨床検査研究所

130 小児の他覚的聴力検査における ASSR の有用性 -ABR との比較-

田島 桂子、間ヶ部 悦子、柳田 浩己、高橋 朋子、秋葉 新、芳賀 徹、嶋田 勇
自治医科大学附属病院臨床検査部

131 体性感覚誘発電位による術中モニタリング

高嶋 浩一、桐生 ななえ、浅子 瑞穂、関口 由衣、湯舟 憲雄、稲葉 信夫、尾本 きよか
河野 幹彦
自治医科大学附属さいたま医療センター臨床検査部

132 神経血管減圧術の術中モニタリングを経験して

大山 英美、高橋 雅之、並木 薫
埼玉県済生会栗橋病院

133 生理検査システムのWEBレポート機能

(CM) 藤森 一彰
フクダ電子西関東販売株式会社

免疫血清 11月28日(日)13:30~14:02

第13会場(第5展示場)

座長:三枝 太郎(東京都済生会中央病院)

134 心筋トロポニンI測定試薬 アーキテクト[®]・トロポニンISTの有用性

川瀬 友香、佐久間 幸枝、高木 正義、高橋 英則、神田 順二
総合病院国保旭中央病院

135 エスプラインHBsAgの日常検査使用時における性能評価について

佐野 悦子、加藤 由貴、鯨井 智子、棚澤 真樹、中西 久江、長谷川 隆
石田 圭一、神山 清志
浦和医師会メディカルセンター

136 血清YKL-40とMDA-LDLの新しい動脈硬化バイオマーカーとしての検討

佐久間 幸枝、川瀬 友香、齊藤 百合子、岩井 利恵、高木 正義、高橋 英則、鈴木 義史
総合病院国保旭中央病院

137 妊婦の出産前スクリーニング検査における性感染症の疫学的検討

手塚 好之、松本 菜月、松島 今日子、本間 正史、石井 隆行、鈴木 美樹、辻原 佳人
根本 総美
神奈川県立汐見台病院臨床検査科

座長:齊藤 雅一(埼玉医科大学病院)

- 138 川越市保健所における性感染症検査について
奥野 純子、井野 由莉恵、細田 豊子
川越市保健所衛生検査課
- 139 川越市保健所におけるSTD検査 -梅毒に関する考察について-
井野 由莉恵、奥野 純子、細田 豊子
川越市保健所衛生検査課
- 140 2法のプロカルシトニン (PCT) 定量試薬の比較検討および臨床的有用性について
小俣 諭子、鎌田 泰至、矢澤 淳子、中島 あつ子、藤代 政浩、柴崎 光衛、春木 宏介
獨協医科大学越谷病院
- 141 Glypican-3 is a useful laboratory diagnostic marker for Hepatocellular Carcinoma
Toshimitsu Kuronuma, Kiyoharu Yamada
Department of Clinical Laboratory, National Cancer Research Center East Hospital

座長:土筆 智晶(北里大学病院)

- 142 当センターにおける脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) 測定結果の検討
南 紗弥佳、岩井 公子、長井 綾子、井田 和利
群馬県立小児医療センター
- 143 CL-JACK を用いたゲタミナーCL BNP の検討
藤代 政浩、鎌田 泰至、三木 隆治、柴崎 光衛、春木 宏介
獨協医科大学越谷病院
- 144 NT-ProBNP 測定に於ける院内運用マニュアル構築
星野 里沙、大橋 初美、岩渕 敏子、鹿沼 あゆみ、大畑 紀子、小沼 利光
東京都済生会向島病院
- 145 BNPの院内と外注測定の対比と時間経過及び保存状態の検討
鶴岡 加奈、佐々木 仁美、原 聡子、関 春菜、森 景子、清水 菜津子、藤沢 一哉
上尾中央医科グループ津田沼中央総合病院

146 BNP 測定値における外注施設間差について

坂田 彩子、小田川 祥子、宮田 清、岩本 猛住、阿部 裕司、橋口 恵子、萩原 久子
春日部市立病院

147 化学発光酵素免疫測定装置 HISCL-2000i

(CM) 宮本 和典

シスメックス株式会社 北関東支店

座長:小山 博史(埼玉社会保険病院)

148 ERMを標準物質とすることによるIFCC勧告法を用いるALP活性測定の評価

小山 真司¹⁾、猪八重 里弥¹⁾、坂本 みゆき¹⁾、坂本 裕衣¹⁾、田端 詩織¹⁾、中本 貴子¹⁾
 松下 誠¹⁾、神山 清志²⁾

¹⁾埼玉県立大学健康開発学科検査技術専攻、²⁾浦和医師会メディカルセンター

149 ALP活性測定における脂肪食の影響と血液型との関係

猪八重 里弥、小山 真司、坂本 裕衣、坂本 みゆき、田端 詩織、中本 貴子、松下 誠
 埼玉県立大学健康開発学科検査技術専攻

150 ラット腎・肝に与えるアミノ酸(メチオニン)過剰投与の影響-基礎検討-

山田 博絵¹⁾、田中 恵¹⁾、工藤 秀機²⁾、小池 盛雄²⁾、芝 紀代子²⁾、金森 きよ子²⁾
 澤田 久美子²⁾、関 貴行²⁾、川上 保子²⁾、久保田 亮²⁾、左雨 秀治³⁾

¹⁾文京学院大学保健医療技術学部、²⁾文京学院大学保健医療技術学部

³⁾東京医科歯科大学難治疾患研究所

151 ラット腎・肝に与えるアミノ酸(メチオニン)過剰投与の影響

-メチオニン投与による血漿蛋白分画・ALP・LDアイソザイムの変動-

田中 恵¹⁾、山田 博絵¹⁾、工藤 秀機²⁾、小池 盛雄²⁾、芝 紀代子²⁾、金森 きよ子²⁾
 澤田 久美子²⁾、関 貴行²⁾、川上 保子²⁾、久保田 亮²⁾、左雨 秀治³⁾

¹⁾文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科、¹⁾文京学院大学保健医療技術学部

³⁾東京医科歯科大学難治疾患研究所

152 SDラット卵巣摘出後における赤血球膜脂質構成成分の変動-閉経による血漿脂質と赤血球膜脂質への影響-

大神田 敬¹⁾、川上 保子¹⁾、工藤 秀機^{1),2)}、芝 紀代子^{1),2)}、左雨 秀治³⁾

¹⁾文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科、²⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科

³⁾東京医科歯科大学難治疾患研究所

座長:砂押 克彦(埼玉県衛生研究所)

153 エチルアルコールの濃度による殺菌効果の検討

栗林 司¹⁾、桜井 梨沙¹⁾、工藤 千明¹⁾、眞野 容子¹⁾、古屋 信彦²⁾、芝 紀代子²⁾

¹⁾文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科、²⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科

- 154 微酸性電解水によるコンタクトレンズ保存容器の消毒効果
 小池 卓矢¹⁾、山田 育世¹⁾、眞野 容子¹⁾、中村 悌一²⁾、鈴木 隆³⁾、富田 守³⁾
 古屋 信彦⁴⁾、芝 紀代子⁴⁾
¹⁾文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科、²⁾森永乳業株式会社食品総合研究所
³⁾株式会社ダイリーテクノ、⁴⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科
- 155 国産鶏肉由来 ESBL (基質特異性拡張型 β -ラクタマーゼ) 産生菌の遺伝子解析
 登利谷 帆波¹⁾、平野 美輝子¹⁾、眞野 容子¹⁾、古屋 信彦^{1),2)}、芝 紀代子^{1),2)}
¹⁾文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科、²⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科
- 156 利根川水中の腸内細菌に有効な抗菌剤の検索
 関根 香桜里¹⁾、棚成 知佳¹⁾、小玉 菜々子¹⁾、山宮 夢子¹⁾、畑 明寿²⁾、藤谷 登²⁾
 三村 邦裕²⁾
¹⁾千葉科学大学大学院危機管理学研究科、²⁾千葉科学大学危機管理学部医療危機管理学科

学生演題 遺伝子・情報 11月27日(土)16:30~16:54

第13会場(第5展示場)

座長:後藤 義也(埼玉医科大学国際医療センター)

- 157 PCR-RFLP 法によるミトコンドリア DNA 多型分析—縄文人と弥生人の解析—
 小野寺 忍¹⁾、中川 征典¹⁾、石田 光夫¹⁾、高橋 綾香¹⁾、吉田 奈央¹⁾、大塚 陽香¹⁾
 佐々木 智恵¹⁾、石橋 佳明²⁾、城田 恵次郎²⁾
¹⁾東武医学技術専門学校臨床検査科、²⁾東武医学技術専門学校
- 158 PCR-RFLP 法を用いたミトコンドリア DNA 多型分析方法の検討—縄文人と弥生人の解析—
 中川 征典¹⁾、小野寺 忍¹⁾、石田 光夫¹⁾、高橋 綾香¹⁾、吉田 奈央¹⁾、大塚 陽香¹⁾
 佐々木 智恵¹⁾、石橋 佳明²⁾、城田 恵次郎²⁾
¹⁾東武医学技術専門学校臨床検査科、²⁾東武医学技術専門学校
- 159 臨床検査教育支援 e-learning システムの構築及び有効性の評価
 庄司 淳、樺澤 一之
 大東文化大学大学院スポーツ・健康科学研究科

学生演題 生理 11月27日(土)16:54~17:26

第13会場(第5展示場)

座長:中村 浩司(筑波メディカルセンター病院)

- 160 心拍変動解析による過呼吸賦活の評価
 高橋 香里¹⁾、鈴木 かおり¹⁾、横田 進²⁾、荒川 恭子¹⁾
¹⁾埼玉県立大学健康開発学科検査技術専攻、²⁾埼玉県立小児医療センター

- 161 大学生における音楽刺激による心拍変動の解析
鈴木 かおり¹⁾、高橋 香里¹⁾、横田 進²⁾、荒川 恭子¹⁾
¹⁾埼玉県立大学健康開発学科検査技術専攻、²⁾埼玉県立小児医療センター
- 162 胎児心エコーによる総肺静脈還流異常 TAPVD (Ⅲ) の検出
佐藤 洋美¹⁾、高橋 美郁子¹⁾、吉越 和江²⁾、荒川 恭子¹⁾
¹⁾埼玉県立大学健康開発学科検査技術専攻、²⁾医療法人双鳳会山王クリニック
- 163 総肺静脈還流異常 (心臓型 IIa) における胎児心臓超音波所見の正常との比較
高橋 美郁子¹⁾、吉越 和江²⁾、荒川 恭子¹⁾
¹⁾埼玉県立大学健康開発学科検査技術専攻、²⁾医療法人双鳳会山王クリニック

学生演題 血液 11月27日(土)17:26~17:58 第13会場(第5展示場)

座長:大野 みどり(東松山市立市民病院)

- 164 モノクローナル抗体を用いた血小板算定のための基準分析法の検討
間島 あゆみ¹⁾、寺社下 悠木¹⁾、佐藤 陽子¹⁾、永井 豊¹⁾、土江 文乃²⁾、近藤 弘²⁾
¹⁾大東文化大学スポーツ・健康科学部、²⁾大東文化大学大学院スポーツ・健康科学研究科
- 165 ミラーディスクを用いた血小板算定のための間接測定法の検討
土江 文乃¹⁾、近藤 弘¹⁾、間島 あゆみ²⁾、寺社下 悠木²⁾、佐藤 陽子²⁾、永井 豊²⁾
¹⁾大東文化大学大学院スポーツ・健康科学研究科、²⁾大東文化大学スポーツ・健康科学部
- 166 網赤血球比率算定のための視算による基準分析法の検討
中村 雅子、松前 恵美、小原 佑太、佐藤 陽子、永井 豊、近藤 弘
大東文化大学スポーツ・健康科学部
- 167 フローサイトメトリーによる活性化血小板検出の基礎的検討
鎌倉 正和、工藤 秀機、鈴木 敏恵
文京学院大学保健医療科学研究科

学生演題 一般 11月28日(日)10:00~10:32 第13会場(第5展示場)

座長:原 美津夫(駿河台日本大学病院)

- 168 尿中塩分測定に関する検討
甲地 恵利和、野田 彩華、周藤 史憲、山中 千佳、酒井 伸枝
埼玉県立大学健康開発学科検査技術専攻

169 市販尿比重測定用試験紙の各種無機塩および蛋白質に対する反応性の比較

中川 紗緒里、鈴木 優治

埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科検査技術科学専攻

170 本学学生の血清および尿を用いたトランスフェリンの検討

山中 千佳、周藤 史憲、野田 彩華、甲地 恵利和、酒井 伸枝

埼玉県立大学健康開発学科検査技術専攻

171 髄液グロブリン蛋白に関する検討

野田 彩華¹⁾、甲地 恵利和¹⁾、周藤 史憲¹⁾、山中 千佳¹⁾、酒井 伸枝¹⁾、奈良 豊²⁾

¹⁾埼玉県立大学健康開発学科検査技術専攻、²⁾埼玉医科大学総合医療センター

学生演題 一般 11月28日(日)10:32~11:04

第13会場(第5展示場)

座長:山浦 久(さいたま市立病院)

172 糖尿病患者の教育・検査入院による尿中蛋白の変動

酒井 理衣¹⁾、五屋麻 友香³⁾、久保田 亮¹⁾、金森 きよ子¹⁾、下村 弘治¹⁾、芝 紀代子²⁾

¹⁾文京学院大学保健医療技術学部、²⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科

³⁾佐々木研究所附属杏雲堂病院検査科

173 尿中エキソソームタンパク質の解析

山口 委久江¹⁾、香坂 亜沙美²⁾、中山 亜紀¹⁾、金森 きよ子¹⁾、下村 弘治¹⁾、芝 紀代子²⁾

¹⁾文京学院大学保健医療技術学部、²⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科

174 学童検尿の早朝尿と来院時尿における蛋白成分の解析(1)

大平 賢太郎¹⁾、石田 萌乃²⁾、尾崎 広²⁾、久保田 亮²⁾、中山 亜紀²⁾、金森 きよ子²⁾

下村 弘治²⁾、五十嵐 徹³⁾、芝 紀代子¹⁾

¹⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科、²⁾文京学院大学保健医療技術学部

³⁾日本医科大学付属病院小児科

175 学童検尿の早朝尿と来院時尿における蛋白成分の解析(2)

尾崎 広¹⁾、石田 萌乃¹⁾、大平 賢太郎²⁾、久保田 亮¹⁾、中山 亜紀¹⁾、金森 きよ子¹⁾

下村 弘治¹⁾、五十嵐 徹³⁾、芝 紀代子²⁾

¹⁾文京学院大学保健医療技術学部、²⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科

³⁾日本医科大学付属病院小児科

座長：山本 英俊 (株 ビー・エム・エル総合研究所)

176 セ・ア膜等電点電気泳動法による尿路結石患者の尿中蛋白の解析

豊田 江里佳²⁾、齋藤 希美¹⁾、川上 保子¹⁾、久保田 亮¹⁾、金森 きよ子¹⁾、下村 弘治^{1),2)}
芝 紀代子^{1),2)}、酒井 直樹³⁾

¹⁾文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科、²⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科

³⁾横須賀共済病院泌尿器科

177 尿路結石患者尿中蛋白成分分析 -対外衝撃波破碎術 (ESWL) 前後における尿中蛋白の変動-

齋藤 希美¹⁾、豊田 江里佳²⁾、川上 保子¹⁾、久保田 亮¹⁾、金森 きよ子¹⁾、下村 弘治^{1),2)}
芝 紀代子^{1),2)}、酒井 直樹³⁾

¹⁾文京学院大学保健医療技術学部臨床検査学科、²⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科

³⁾横須賀共済病院泌尿器科

178 種々腎疾患患者と健常人における尿中 Tamm-Horsfall Protein の動態解析

吉田 祐樹¹⁾、香坂 亜沙美²⁾、中山 亜紀¹⁾、坂爪 実³⁾、金森 きよ子¹⁾、下村 弘治¹⁾
芝 紀代子²⁾

¹⁾文京学院大学保健医療技術学部、²⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科

³⁾新潟大学大学院医歯学総合研究科腎膠原病分野

179 各種腎疾患患者尿における低質量アルブミンはプロテアーゼによるものなのか？

五十嵐 彩香¹⁾、大竹 純也¹⁾、中山 亜紀¹⁾、坂爪 実³⁾、金森 きよ子¹⁾、下村 弘治¹⁾
芝 紀代子²⁾

¹⁾文京学院大学保健医療技術学部、²⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科

³⁾新潟大学大学院医歯学総合研究科腎膠原病分野

座長：深田 茂則(埼玉医科大学国際医療センター)

180 尿中の酸化障害アルブミンの解析

菅家 梓¹⁾、大竹 純矢²⁾、中山 亜紀¹⁾、坂爪 実³⁾、金森 きよ子¹⁾、下村 弘治¹⁾
芝 紀代子²⁾

¹⁾文京学院大学保健医療技術学部、²⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科

³⁾新潟大学大学院医歯学総合研究科腎膠原病分野

- 181 腎疾患患者尿における血中トランスフェリン多様性の解析 -電気泳動法を用いて-
長峯 正流¹⁾、大平 賢太郎²⁾、久保田 亮¹⁾、中山 亜紀¹⁾、金森 きよ子¹⁾、下村 弘治¹⁾
五十嵐 徹³⁾、芝 紀代子²⁾
¹⁾文京学院大学保健医療技術学部、²⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科
³⁾日本医科大学附属病院小児科
- 182 尿試験紙を用いての唾液中成分の日内変動・日間変動と項目間の相関
渡辺 知世¹⁾、山谷 健吾¹⁾、布川 和樹²⁾、久保田 亮¹⁾、金森 きよ子¹⁾、下村 弘治¹⁾
芝 紀代子²⁾、福田 功³⁾、山崎 洋治⁴⁾、渋谷 耕司⁵⁾
¹⁾文京学院大学保健医療技術学部、²⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科、³⁾アークレイ(株)
⁴⁾(財)ライオン歯科衛生研究所、⁵⁾OHS 研究所
- 183 唾液のアンモニア濃度と濁度の日内・日間変動および口臭との関連性
山谷 健吾¹⁾、渡辺 知世¹⁾、布川 和樹²⁾、金森 きよ子¹⁾、下村 弘治¹⁾、芝 紀代子²⁾
福田 功³⁾、山崎 洋治⁴⁾、渋谷 耕司⁵⁾
¹⁾文京学院大学保健医療技術学部、²⁾文京学院大学大学院保健医療科学研究科
³⁾アークレイ(株)、⁴⁾(財)ライオン歯科衛生研究所、⁵⁾OHS 研究所

特別公開講演 1

『以心電心！ 一鉄道博物館で学ぶ安全文化一』

11月27日（土）14：30～15：30（第1-4会場 4階・市民ホール）



まつひさ けんいち

講師：松久 謙一 先生

鉄道博物館 副館長

一 略 歴 一

学 歴

1992年 3月 大阪大学理学部卒業

職 歴

1992年 4月 東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）入社
車掌、輸送指令、輸送計画、乗務員指導などを経験した後、
JR東日本総合研修センター運輸研修部次長を歴任

2009年 11月 東日本鉄道文化財団（出向）
鉄道博物館 副館長（学芸部長）現職



←多くの来館者でにぎわう鉄道博物館

東海道新幹線開業時の様子を再現した
「0系新幹線展示棟」



←1200両のHOゲージ車両が走る、
日本最大の「模型鉄道ジオラマ」



特別公開講演2

『鉄道大好き行け行けドクターの尿検査と検診のすすめ』

11月27日(土) 15:30~16:30 (第1-4会場 4階・市民ホール)



いとう きいち

講師：伊藤 機一 先生

大東文化大学スポーツ・健康科学部 健康科学科 教授

一 略 歴 一

2010年9月30日 現在

学 歴

1968年9月 順天堂大学医学部卒業

職 歴

1975年2月 中央鉄道病院(現 JR 東京総合病院) 医長

1981年4月 都立荏原病院検査科長

1984年4月 東海大学医学部助教授・附属大磯病院診療協力科長

1988年4月 米国スクリップス記念病院・研究所臨床病理部客員教授

1990年4月 静岡県環境衛生科学研究所所長

1999年7月 神奈川県立衛生短期大学学長

2004年4月 神奈川県立保健福祉大学人間総合専門・基礎学科教授

2006年4月 大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科教授

2007年4月 大東文化大学スポーツ・健康科学部学部長(～2009.3)

学 位：医学博士

専門領域

臨床検査医学, 尿検査学

主な役職

- ・ 特定非営利活動法人日本臨床検査標準協議会(JCCLS)尿検査標準化委員会 委員長
- ・ 一般社団法人 日本臨床検査同学院 特別顧問
- ・ 有害・医療廃棄物研究会 副会長
- ・ 胆道閉鎖症早期発見のための研究会 会員

学術公開講演 1 『女性特有のがん対策』

11月28日(日) 9:30~10:30 (第1・2会場 4階・市民ホール)



このりょう

講師：今野良先生

自治医科大学附属さいたま医療センター産婦人科 教授

一 略 歴 一

2010年5月10日現在

学 歴

1978年4月 自治医科大学医学部入学
1984年3月 同 卒業

職 歴

1984年5月 東北大学医学部産婦人科学教室に入局。
自治医科大学卒業の勤務義務年限を岩手県内の県立病院および僻地医療機関等で9年間勤務。その間、1988年6月から、2年間、東北大学医学部産婦人科大学院研究生。
1995年6月 東北大学医学部産婦人科 助手
1996年5月 東北大学医学部産婦人科 講師
1997年6月 東北大学医学部産婦人科 医局長
2001年1月 山形県立中央病院産婦人科 科長。
2002年4月 自治医科大学 総合医学第2講座 助教授、附属大宮医療センター婦人科 科長
2008年4月 自治医科大学附属さいたま医療センター産科婦人科 教授。

免 許

医籍 1984年5月26日 第282042号

学 位

1991年2月27日 東北大学

「子宮頸部扁平上皮癌および異形成の進展とヒトパピローマウイルス感染」

*1988年からHPV研究に取り組む。

学会専門医等

1989年10月 日本産婦人科学会専門医：19840465-N-8999
1991年12月 日本臨床細胞学会細胞診専門医：第1131号
2003年7月 日本産婦人科内視鏡学会 技術認定医 審査委員
2003年7月 日本産婦人科内視鏡学会技術認定医：0929-2003-0031
2005年2月 日本内視鏡外科学会 技術認定医
2007年2月 日本婦人科腫瘍学会 専門医
2008年4月 日本がん治療認定医機構 認定医
2008年11月 子宮頸癌征圧をめざす専門家会議 実行委員長

所属学会

- ・日本産婦人科学会 代議員、埼玉県支部理事
- ・日本婦人科腫瘍学会 評議員、学術委員
- ・日本産婦人科内視鏡学会 理事
- ・日本臨床細胞学会 評議員、埼玉県支部理事
- ・日本婦人科がん検診学会 理事
- ・日本産婦人科乳癌学会 理事
- ・日本乳癌検診学会 評議員

学術公開講演2 『女性特有のがん対策』

11月28日(日) 10:30~11:45 (第1・2会場 4階・市民ホール)



なかの さとこ

講師：中野 聡子 先生

川口市立医療センター 外科 副部長

— 略 歴 —

学 歴

1989年3月 琉球大学医学科卒業

職 歴

1989年4月 東京慈恵会医科大学外科研修

1991年4月 東京慈恵会医科大学第一外科入局

1991年8月 川口市民病院神根分院勤務

1993年1月 東京慈恵会医科大学第一外科

1994年1月 癌研究会附属病院外科

1995年1月 東京慈恵会医科大学

1996年1月 川口市立医療センター外科 現在に至る

資格等

- ・乳癌学会専門医
- ・がん治療認定医
- ・外科学会指導医
- ・外科学会専門医
- ・消化器外科学会専門医
- ・マンモグラフィー読影資格認定 (A)

学術講演 1 『女性特有のがん対策』

11月28日(日) 13:45~15:00 (第1・2会場 4階・市民ホール)



これまつ もとこ

講師：是松 元子 技師

埼玉社会保険病院 病理部

一 略 歴 一

学 歴

1969年3月 山口大学医学部附属衛生検査技師学校卒業

職 歴

1969年4月 山口大学医学部附属病院勤務

1970年4月 下関医師会医療センター勤務

1972年9月 東京公衆衛生研究所勤務

1974年3月 八木病院勤務

1975年6月 社会保険埼玉中央病院（現埼玉社会保険病院）勤務 現在に至る

資 格

1969年 衛生検査技師免許取得

1969年 血液学二級試験合格

1970年 臨床検査技師免許取得

1976年 細胞検査士免許取得

1977年 国際細胞検査士免許取得

1978年 病理学二級試験合格

賞 罰

2006年 日本臨床細胞学会技師賞受賞(学術部門)

役 員

- ・細胞診断学推進協会理事
- ・細胞診断学推進協会細胞検査士会 学術委員長
- ・細胞診断学推進協会細胞検査士会 ベセスダ小委員会委員長
- ・日本臨床細胞学会 評議員
- ・日本臨床細胞学会埼玉県支部 理事
- ・日本臨床細胞学会埼玉県支部細胞検査士会 理事

学術講演2 『女性特有のがん対策』

11月28日(日) 15:00~16:15 (第1・2会場 4階・市民ホール)



おもと きよか

講師：尾本 きよか 先生

自治医科大学附属さいたま医療センター
総合医学第1講座 准教授

一 略 歴 一

学 歴

1988年3月 自治医科大学 医学部 卒業

職 歴

1988年5月 沖縄県立中部病院 初期研修

1990年5月 離島診療所勤務、沖縄県立中部病院 消化器内科

1993年1月 自治医科大学 臨床検査医学(旧臨床病理学) 研究生

1997年7月 自治医科大学 臨床検査医学教室 入局

1997年11月 自治医科大学 臨床検査医学講座 病院助手

2000年8月 学位 博士(医学)

「超音波三次元画像を用いた乳腺腫瘍の抽出と良悪性の自動判別に関する研究」

2003年2月 自治医科大学 臨床検査医学講座 講師

2006年6月 自治医科大学 臨床検査医学講座 准教授

2007年11月 自治医科大学附属さいたま医療センター 総合医学第1講座

准教授(臨床検査部 副部長) / 自治医科大学 臨床検査医学講座 准教授

学会専門医・資格等

日本超音波医学会 評議員(代議員)・指導医

- ・論文編集委員会査読委員および菊池賞・伊東賞審査委員
- ・超音波専門医制度委員会 乳腺・甲状腺領域 副責任者
- ・超音波検査士制度委員会 体表臓器 正責任者
- ・超音波工学フェロー認定審査委員会 委員
- ・機器および安全に関する委員会 委員、倫理委員会 幹事

日本臨床検査医学会 専門医・臨床検査管理医

日本内科学会 総合内科専門医

日本消化器病学会 指導医

日本消化器内視鏡学会 指導医

日本肝臓学会 指導医

日本救急医学会 救急科専門医

日本乳癌学会 認定医

日本乳癌検診学会 評議員

日本甲状腺学会 専門医

日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・認定研修指導医

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医・暫定教育医

日本医師会認定産業医

インфекションコントロールドクター (ICD)

専門・研究テーマ

- ・超音波診断学(腹部臓器、乳腺・甲状腺、血管ほか)
- ・造影超音波画像による乳癌のセンチネルリンパ節同定法の研究

『日臨技精度保証事業 伝達研修会』

11月28日(日) 13:30~15:00 (第6会場 6階・603会議室)

臨床検査の標準化とこれからの方向性

大澤 進 (九州大学大学院医学研究院 保健学部門 検査技術科学分野)

1. 臨床検査の標準化の変遷

日本臨床化学会夏期セミナーの標準化活動により多くの勧告法が完成し、1985年に設立された日本臨床検査標準協議会(JCCLS)の活動の柱として、我が国の臨床検査の標準化に貢献することになった。これらの各種の勧告法や標準物質の規格が完成したことで、常用酵素標準物質などが提供され、検査試薬メーカーはこれらの常用標準物質を用い製品の校正物質へ値付けすることが促進され、実質的な検査データの標準化が急速に進展することになった。

2. 国際的な臨床化学の標準化と国内の標準化

1995年に発足した国際標準化機構(ISO)の「臨床検査と体外診断用検査システム」専門委員会に対応してJCCLS内部に国内検討委員会が設置された。2003年、JCCLS内部に「臨床検査標準化基本検討委員会」が設置され(1)標準物質の整備、(2)臨床検査測定値の標準化(施設間較差是正)、(3)データベース化と診断・治療指針の標準化、の3本の柱を立てた。特に、臨床検査値の標準化では、パッチワークによる試験的な試みを経て、日臨技が実践的活動を担うため全国標準化システム構築に3年間の事業が行われ、参加施設は基幹施設約170施設、参加施設約3000施設と大きな成果を挙げた。

3. 今後の展開と方向性

臨床検査データ標準化事業での三年間の実績を継続的に発展すべく、より効果的・効率的な標準化事業の継続を目指すため、さらに以下の計画で事業を進めている。

- 1) 臨床検査精度管理調査の全国・地域別実施手順に関する日臨技指針の策定
- 2) 臨床検査精度管理調査および検査値標準化事業に用いる情報処理システムの再構築
- 3) 臨床検査データ標準化事業の日臨技・地域内役割分担指針・正確さ維持指針の策定
- 4) 標準化データによる広く共有できる基準範囲の設定
- 5) 臨床検査室の精度保証認証制度の構築
- 6) 臨床検査精度保証教本の発刊

日臨技の臨床検査データ標準化実践事業と精度管理調査事業は、車の両輪のような関係であり、両者が相互に補完し合いながら真に有用な臨床検査情報の提供を目指す。精度保証事業が全国規模で展開し、地域単位での実践と組織的に融合し継続することで、臨床検査データが国民の疾病予防や健康増進に役立つと言える。

演題 71・72 コマーシャル演題（臨床化学）

11月27日（土）18:06~18:22（第11会場 第3展示場）

臨床検査に影響する純水中の不純物と EDI 方式純水装置 Elix-UV

金沢 旬宣（日本ミリポア ラボラトリーウォーター事業本部）

【はじめに】ほとんどの臨床検査室は試薬希釈や各種分析装置に供給などの目的で純水装置が設置されています。純水装置は水道水を「きれい」にするのは知っているけど、さて何のために純水化する必要があるのだろうと疑問に思われたこともあるかもしれません。実は純水は分析装置や試薬と並ぶ検査の精度を決定する重要な要素です。本演題の前半は水に含まれる各種不純物が臨床検査に及ぼす可能性のある影響を解説します。また後半は連続イオン交換 (EDI) という精製技術を組み込んだ、新しい純水装置 Elix-UV を紹介し、従来型の再生式イオン交換を組み込んだ純水装置と比較したメリットを紹介します。

【水の不純物が臨床検査に及ぼす影響】表1は各種の臨床検査ラボで行われる分析において水の不純物が影響する項目を表したものです。イオンはすべての分析に影響を及ぼすため最重要項目として常に検査に影響しないレベルまで除去し、かつ管理する必要があります。有機物は成分によっては試薬や検査目的物と反応することがあり、またベンゼン環を持つ有機物を含む場合は蛍光を発することがあります。細菌はイオンと有機物の複合体であり、それらを放出するだけでなく、細菌の副生成物を放出や、細菌が菌膜にまで成長して分析装置内目詰まりを起こすなど検査を妨害する主要因になり得る存在です。生菌副生成物の代表であるアルカリフォスファターゼは酵素免疫反応で標識として使われていて、検査結果に影響をおよぼす場合があります。最後に粒子とシリカですが細菌などと相乗して分析装置の配管、脱気装置、電磁弁などを目詰まらせます。

【各種精製技術】水に含まれる各種不純物を取り除くために、様々な精製技術があります。

表1 臨床検査に影響する純水中の不純物、対応精製技術

水に含まれる不純物	生化学	酵素	酵素免疫	薬中毒検査 TDM	微量元素	分子生物	分析機器供給	対応精製技術
イオン	●	●	●	●	●	●	●	逆浸透, EDI, イオン交換
有機物		●	●	●		●	●	逆浸透, 活性炭, 185nm紫外線
細菌	●	●	●	●	●	●	●	0.22 μmフィルタ, 254nm紫外線, 各種殺菌剤
細菌副生成物		●	●			●		限外ろ過
粒子							●	各種フィルター(メンブレン, 限外ろ過, 逆浸透)
シリカ							●	逆浸透, EDI, イオン交換

純水は1種類の精製方法では検査に必要な純度を得ることは困難で、複数の方法の組み合わせが必須です。各精製技術を理解し、それらに必要なメンテナンスをきっちりと行うことが純水の信頼、さらには検査の信頼確保につながります。

【EDI方式純水装置 Elix-UV】Elix-UVには、純水精製や使い勝手に関する多くの新しい技術やアイデアが組み込まれています。代表として連続イオン交換EDIをご紹介します。これは従来よく使われている再生式イオン交換樹脂に置き換わる新しいイオン精製技術です。電気透析のように、EDI内に水を流しながら同時に樹脂再生を行っていく方式なので、水質が長期にわたって安定する特徴があります。またElix-UVは紫外線ランプを標準で組み込んでいて純水中の細菌数を低いレベルに抑制します。従来の純水技術の問題点と対応技術を表2にまとめました。またElix-UVはオプションで各種フィルター類を設置できるため、細菌由来の問題点を解消可能です。

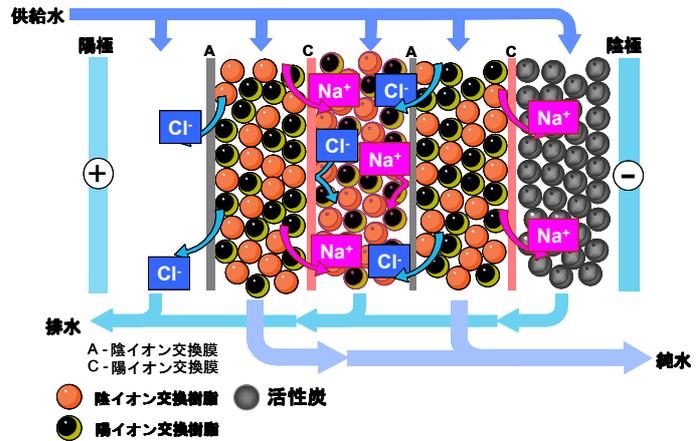


図1 EDIの原理図

表2 従来の純水技術の問題点と Elix-UVによる解決

従来の純水技術の症状	影響	Elix-UVの精製技術	効能
イオン交換樹脂ポンベの交換	交換の手間 交換にかかる時間 ランニングコスト	EDI	樹脂交換不要
イオン交換樹脂飽和時の水質低下	検査値への影響	EDI	水質長期安定
樹脂から放出される細菌	分析装置内のヌルヌル目詰まりなどのトラブル	殺菌紫外線ランプ	細菌数低減
	細菌由来のアルカリフォスファターゼで酵素免疫反応に影響	メンブレンフィルター（オプション）	無菌ろ過
		限外濾過膜 BioPak-C（オプション）	アルカリフォスファターゼ除去

連絡先 masanori_kanazawa@millipore.com

演題133 コマーシャル演題（生理）

11月28日（日）15:06~15:14（第12会場 第4展示場）

生理検査システムのWEBレポート機能

藤森 一彰（フクダ電子西関東株式会社）

[はじめに]

Web技術は医療情報の分野でも、必要不可欠な技術となってきた。電子カルテや医用画像管理システム（PACS）、生理検査システムなどのほとんどのシステムがWeb機能を採用しており、いつでも安全に早く効率的に集積された診療支援情報を医師あるいは医療従事者へ情報を提供している。記憶に新しいところでは今年の5月28日にアップルの開発したタブレット型コンピュータ“iPad”が日本でも発売され、医療の現場にも導入されつつある。

[電子カルテ端末を利用したWebレポートの作成]

今回、紹介するWebレポートの作成機能は、生理検査システム（Hi-MEDION）に連携して使用できる機能で、Webによる診断レポートの作成と参照が可能となる。電子カルテ端末などを使用するため、プラットフォーム依存のないレガシーHTML+Javascriptにより構成しており、レポート作成専用端末のアプリケーションと同等の機能を提供している。

主な機能としてレポートの作成・参照、レポート作成時の検査データ同時参照、定型文の利用・貼り付け、シエーマや検査画像、外部画像の貼り付け、オーダー・患者属性の自動貼り付け、心エコー（WallMotionScore）の編集・貼り付けの他、レポート参照画面の検査画像を指定する事により動画再生が可能となる。

提携文の入力やシエーマ、検査画像のレポートへの貼り付けはツールボックスからドラック&ドロップにより行う事が可能。

連絡先 048-710-2265（代）

演題147 コマーシャル演題（免疫血清）

11月28日（日）15：14～15：22（第13会場 第5展示場）

化学発光酵素免疫測定装置 HISCL-2000i

宮本 和典（シスメックス株式会社 北関東支店）

化学発光酵素免疫測定装置 HISCL-2000iについて紹介する。HISCL-2000iは、化学発光酵素免疫測定法（CLEIA）を原理とし、標識酵素にアルカリホスファターゼ（ALP）を用いて化学発光を検出する方式である。測定フローとして、検査項目の特性により、2ステップ法、1ステップ法、ディレイド-1ステップ法の選択が可能であり、それぞれサンドイッチ法や競合法に対応できる。基質には高性能の化学発光基質CDP-Starを採用し、反応系の効率化により高感度化を実現した。また、高感度化に伴うバックグラウンドノイズを低減するため、高効率・効果的なB/F分離を行っている。

HISCL-2000iは、反応時間が17分と迅速測定が可能であり、すべての項目の反応時間を17分としている。検体量は10～30μLと微量であり、さらに臨床上きわめて高感度が要求される検査項目において、最高水準の感度を実現した。

臨床現場で広く受け入れられる分析装置としてご提案してまいりたい。

機器の仕様を示す。

【測定原理】	化学発光酵素免疫測定（CLEIA法）
【処理能力】	180テスト/時間
【反応時間】	17分
【同時測定項目】	最大12項目
【検体架設】	50/100検体架設サンプル（随時追加可能）
【測定項目】	

肝炎ウイルスマーカー HBs抗原、HBs抗体、HBe抗原、HBe抗体、
HBc抗体、HCV抗体

その他感染症 TP抗体、HIV1/2抗体、HTLV-1、HIV抗原・抗体*

甲状腺関連 TSH、FT3、FT4、TPOAb*、TgAb*

腫瘍マーカー AFP、CEA、PSA、CA19-9、CA125

凝固線溶分子マーカー TAT、PIC、tPAI-C、TM

その他 インスリン、フェリチン

*開発中項目

連絡先：048-600-3888

コーヒブレイクセミナーとランチョンセミナーの案内

コーヒブレイクセミナー

11月27日(土) 13:30~14:30

No.	会場	テーマ	開催会社名
1	6階・会議室 (第5会場：602) 90席	そうだったのか、感染制御 ～感染制御の世界事情～ 演者：横山 僚 (シスメックス株式会社トータルソリューション部)	シスメックス株式会社
2	9階・会議室 (第7会場：905) 66席	肝機能検査：異常値を解釈するための必要な基礎知識 演者：持田 智 (埼玉医科大学 消化器内科・肝臓内科 教授) 司会：斉藤 妙子 (埼玉医科大学病院 中央検査部 技師長)	三光純薬株式会社
3	9階・会議室 (第8会場：906) 102席	定量法試薬におけるバリデーションの活用法 演者：長尾 健次 (和光純薬工業株式会社 カスタマサポート部)	和光純薬工業株式会社

整理券配布時間：11月27日(土) 11:00～ 総合受付前のロビーにて配布 (お一人様1枚のみ、先着順)

ランチョンセミナー

11月28日(日) 12:15~13:15

No.	会場	テーマ	開催会社名
1	4階・市民ホール (第1会場：401) 90席	迅速診断検査の有用性と限界 - 尿中抗原検査を中心に - 演者：館田 一博 (東邦大学医学部微生物・感染症学講座 准教授) 司会：結城 篤 (防衛医科大学校病院 検査部)	インバネス・ メディカル・ジャパン 株式会社
2	4階・市民ホール (第2会場：402) 111席	全自動血液凝固分析装置COAGTRON-180の紹介と使用経験 演者1：小田由紀夫 (協和メデックス株式会社 学術部) 演者2：川村 公彦 (独立行政法人国立病院機構 西埼玉中央病院 研究検査科)	協和メデックス株式会社
3	4階・市民ホール (第3会場：403) 111席	脂質検査の標準化 - LDL-C を中心に - 演者：櫻林郁之介 (自治医科大学 名誉教授) 司会：神山 清志 (浦和医師会メディカルセンター 技師長)	積水メディカル株式会社
4	4階・市民ホール (第4会場：404) 90席	輸血のオーダリング・電子カルテ導入に伴う基礎知識 演者：本山 史郎 (オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社)	オーソ・クリニカル・ ダイアグノスティックス 株式会社
5	6階・会議室 (第5会場：602) 90席	呼吸器感染症の新たな遺伝子検査法 演者：高野 弘 (栄研化学株式会社 市場対策室LAMP推進部) 司会：吉岡 浩明 (埼玉県立がんセンター 検査技術部 副技師長)	栄研化学株式会社
6	6階・会議室 (第6会場：603) 90席	乳癌診療の最前線 演者：大崎 昭彦 (埼玉医科大学 乳腺腫瘍科 准教授) 司会：池淵 研二 (埼玉医科大学病院 中央検査部 部長)	シーメンスヘルスケア・ ダイアグノスティックス 株式会社

整理券配布時間：11月28日(日) 8:30～ 総合受付前のロビーにて配布 (お一人様1枚のみ、先着順)

そうだったのか感染制御 ～感染制御の世界事情～

横山 僚 (シスメックス株式会社 トータルソリューション部)

昨今、日本国内をにぎわしている多剤耐性菌は世界的な問題であり、2001年には世界保健機関 WHO から薬剤耐性菌の増加・蔓延に対しての警告が発せられている。

欧州では早くから各国独自の対策を実施してきたが、1998年より EARSS (The European Antimicrobial Surveillance System) が実施され、現在では 34 カ国が参加している。また、1997年には欧州抗菌薬感受性試験委員会が設立され、従来各国で定めていた抗菌薬ブレイクポイントを統一化する方向となっている。

米国では MRSA、VRE の蔓延により VRSA が検出されるに至り、2003年、米国病院疫学学会 (SHEA: The Society for Healthcare Epidemiology of America) は「MRSA と VRE の院内伝播防止のための SHEA ガイドライン」において“積極的監視培養”と“監視培養の結果が陰性となるまでの接触予防策の先制攻撃的使用”を推奨した。また、2004年、米国疾病管理予防センター (CDC: Center for Disease Control and Prevention) は「隔離予防策のガイドライン：医療現場における感染病原体の伝播防止 (草案)」にて、それまで病院感染 (Hospital Acquired Infection) と定義されていたものを医療関連感染 (HAI: Healthcare-Associated Infection) とし、医療が行われているあらゆる環境 (例えば急性期病院、慢性期医療施設、外来クリニック、透析センター、外科センター、在宅医療) に関連した感染症として、耐性菌の伝播防止を広く訴えた。さらに、CDC では「耐性菌防止のための 12 ステップ (成人入院患者)」を公表し、総合的な耐性菌対策を示した。

このように世界的に数々の取り組みを行ってきたが、耐性菌は増加傾向にある。その中で、MRSA に対する積極的な監視培養 (ASC: active surveillance culture) に国家的に取り組んできたオランダの成果 (オランダでは一時約 20% あった MRSA 分離率を < 1% に維持している。) が世界的に注目を集めている。

国内においても 2007 年の医療法施行規則改正により全ての医療機関において感染対策指針を策定し、マニュアルの作成・履行することが規定された。また、厚生労働省院感染対策サーベイランス JANIS により国内における耐性菌発生動向の把握や新規耐性菌の早期発見がなされているが、昨今の医療ツーリズムの世界的な拡大により、耐性菌の伝播スピードは格段に速くなり、一旦新たな耐性菌が発生すると世界的規模で蔓延することとなっており、国内のみならず、海外の耐性菌情報の早期入手が必要となっている。

今回は、欧米の感染制御や各種ガイドライン、情報入手サイトなど紹介し、最新の情報を提供する。

肝機能検査：異常値を解釈するために必要な基礎知識

持田 智 (埼玉医科大学 消化器内科・肝臓内科 教授)

大部分の肝疾患は、その定義、診断基準が病理組織学的に規定されている。このため肝臓病領域における診断学は、血液などを利用した検体検査によって、肝の組織所見を推測することが求められる。このため正確な診断には、肝の構造と機能を理解することが必須である。

肝機能検査は、① 成因に関する検査、② 肝壊死の程度を反映する検査、③ 肝機能を反映する検査、④ 胆汁鬱滞に関する検査、⑤ 肝疾患の合併症に関する検査に分類される。これらのうち、成因に関する検査は肝炎ウイルスに関する新たな知見が短期間に集積し、各種遺伝子検査が導入されて、専門医以外には理解が困難な領域になってきている。また、最近ではヒト遺伝子に関する SNP 検査も、抗ウイルス療法の効果を予測する目的で、先進医療として混合診療の基で測定することが認可されるに至った。さらに、肝癌マーカーに関する検査も新たな測定法に関する検討が進められており、今後は偽陽性例の扱いが変化すると推測される。

本セミナーでは、肝の構造と機能、肝炎ウイルス、肝癌およびヒト遺伝子に関する新たな知見を紹介し、これらが肝機能検査として臨床の現場でどのように利用しているかを概説する。

定量試薬法におけるバリデーシヨンの活用法

長尾 健次 (和光純薬工業株式会社 カスタマーサポート部)

臨床検査データの精度保証や国際的な標準化を進めるためには、検査室で使用している試薬のバリデーシヨン(妥当性)の確認を行い、明確化することが今後は必要と考えています。国際標準化機構の臨床検査と体外診断システム専門委員会(ISO/TC212)が発行した国際規格ISO 15189「臨床検査室—品質と能力に関する特定要求事項」に基づく臨床検査室認定制度の導入など、測定法のバリデーシヨンは重要な位置を占めていることは言うまでもありません。そこで和光純薬は精度保証の観点に注力し、試薬メーカーとしての役割を推進する考えでいます。

今回紹介させていただきますバリデーシヨンは、具体的には、特異度、真度、精度(併行精度・室内再現精度・室間再現精度)、検出限界、定量限界、直線性、範囲、頑健性などについて、適正な試験法を適用し客観的な根拠を示しその妥当性を確認することです。すなわち、臨床検査で用いる測定法が、日常検査に適用できる性能を有しているかどうかの判断に、バリデーシヨン・データが用いられると言う事になります。

従来、測定法の採用時に、目的疾患に対する感度・特異度などの臨床的特性、迅速性・簡便性・安全性・コストなどの実用性に関する特性、また測定値の精密さ・正確さなど信頼性に関する特性が評価されてきました。中でも、臨床に役立つ客観的医療情報の提供を目的とする臨床検査において、測定値の信頼性を保証することは、もっとも基本的で重要であると言えます。

特に今回はバリデーシヨン確認事項に「頑健性」と耳慣れない用語があります。この頑健性とは「測定条件が僅かに変動した場合、測定結果にどの程度の影響を与えるのかの性能確認をする事項」となります。

検査データは装置のコンディションも含めた状態で測定していますが、装置の状態の僅かな変化に対して、試薬がどの程度までなら許容可能で、検査データに影響が出ないのかを確認することになります。たとえば、反応セル用の洗浄剤が僅かに残った場合のpHの影響、または試薬ノズルからの洗浄水の持ち込みによる希釈の影響、反応温度による影響などが考えられます。また、装置によりましては、試薬比率を変化した状態で測定をするなど、検査データを変動させる要因は多種多様にあります。今回は、上記で説明しました内容を確認しましたので紹介します。

- 1) 試薬のpHの影響
- 2) 試薬比率の変動の影響
- 3) 測定温度による影響
- 4) 試薬の希釈による影響

日常検査データを利用する臨床医や医療従事者にとって、検査データに関する問題が発生したとき、バリデーシヨン・データに基づき対応できることが重要であります。バリデーシヨンで得られた性能特性が、こうした対応時に有効な情報を提供することが少なく、室内再現精度や不確かさのデータは、同一患者の測定値における注目変動が、臨床的に有意なものであるかどうかの判断に利用できます。また、特定な試料で干渉や妨害反応が予想される測定値が得られたとき、特異性、選択性試験データが参考となります。

測定法のバリデーシヨン、品質管理、標準手順の構築と改善、外部精度評価などクオリティマネジメントシステムを構成するそれぞれが科学的・有機的・継続的に機能することで臨床検査データの信頼性が保証されることとなります。

ランチョンセミナー 1 <インバネス・メディカル・ジャパン株式会社>
11月28日(日) 12:15~13:15 (第1会場 4階・市民ホール401)

迅速診断検査の有用性と限界 ―尿中抗原検査を中心に―

館田 一博 (東邦大学医学部 微生物・感染症学講座 准教授)

肺炎は今日においてももっとも重要な感染症の1つであり、迅速な診断および適切な抗菌薬療法がその対応において重要である。最近では、市中肺炎の原因としてレジオネラや肺炎クラミジアといったいわゆる異型病原体の重要性が指摘され、その診断法が複雑化した状況にある。特に肺炎球菌・レジオネラ肺炎は死亡率が高い感染症の代表であり、また選択される抗菌薬が異なることから迅速診断が重要である。これら肺炎の診断法としては培養法が **gold standard** であるが、特にレジオネラにおいては特殊培地を用いた培養が必要であり、その陽性率は決して満足できるものではない。一般的にみて、市中肺炎全体における起炎病原体の決定率はたかだか40-60%というのが現状である。このような状況の中で、レジオネラおよび肺炎球菌感染症患者を対象に、患者尿から病原体抗原を特異的かつ迅速に検出できるキットが開発され利用可能となっている。本発表では「尿中可溶抗原による肺炎の診断」をテーマに、レジオネラおよび肺炎球菌性肺炎の診断キットの特徴・有用性、さらにはその問題点と限界について発表する。

【レジオネラ肺炎】 当教室は厚生省レジオネラ感染症研究班の1施設として本症の診断を開始し、本菌肺炎疑いで送付された検体を対象に約15年間で220症を超えるレジオネラ肺炎を診断している。今回、これら症例を対象にレジオネラ肺炎診断における尿中抗原検出キットの有用性について解析を加える。尿中抗原の検出はBinaxおよびBiotest社のキットを用い検討した。各種検査法における陽性/検査症例数(%)は、培養法で26%、血清抗体価測定で39%、PCR法で61%、尿中抗原検出で61%であった。特に培養陽性となった *L. pneumophila* 血清型1感染症においては84%が尿中抗原陽性であった。さらに *L. pneumophila* 血清型1以外の感染症における尿中抗原の陽性頻度は26%と低いことから、本キットは基本的に血清型1感染症に対して有用な検査法であると考えられた。

【肺炎球菌性肺炎】 肺炎球菌感染症における尿中抗原検出キットがBinax社により開発されている。市中肺炎57例における検討では、19症例で肺炎球菌尿中抗原が陽性となっている。このうち血液培養陽性であった2例はいずれも尿中抗原陽性、喀痰培養陽性であった6例中3例が尿中抗原陽性となっている。本発表では、免疫クロマトグラフィー法による尿中抗原検査による肺炎診断の有用性と将来展望に関して報告し、ご参加の先生方とディスカッションできればと考えている。

全自動血液凝固分析装置 COAGTRON-180 の紹介と使用経験

小田由紀夫 (協和メデックス株式会社 学術部)

川村 公彦 (独立行政法人国立病院機構 西埼玉中央病院 研究検査科)

血液凝固検査で使用される全自動分析装置は測定項目、測定原理の多様化に対応する為、プロトロンビン時間 (PT)、活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)、フィブリノーゲン、複合凝固因子の測定にとどまらず、ラテックス凝集反応を用いた測定項目 (D-Dimer, FDP 等) 及び合成基質を用いた測定項目に対応出来る全自動機器が 1990 年代半ばより導入され現在に至っている。これら全自動機器に求められる性能を満たすべく開発された全自動血液凝固分析装置 COAGTRON-180 について紹介させて頂く。COAGTRON-180 は Tcoag 社が特許を持つ物理的凝固点検出法と光学的凝固点検出法をはじめ、合成基質法、ラテックス凝集法など、多彩な測定モードを搭載した全自動血液凝固分析装置である。COAGTRON-180 は血液凝固項目 (PT、APTT、フィブリノーゲン、複合凝固因子及び各凝固因子) の測定に光学的凝固点検出法と物理的凝固点検出法での測定が可能であり、両測定法の特徴を生かすことが可能である。例えば、PT を光学的凝固点検出法で測定する場合の測定項目を PTO、物理的凝固点検出法で測定する場合の測定項目を PTM として機器に登録し、一つの検体について PTO と PTM を同時に測定する事も可能であり、また PTO で最初に測定し PTM で再検する事も可能となる。物理的測定法を用いた場合は、測定に必要な反応液量 (検体量+試薬量) が光学的凝固点測定法の 1/2 で測定可能である事も本機器の特徴の一つとなっている。すなわち、光学的凝固点検出法、合成基質法およびラテックス凝集法の場合は反応ウエル中での最低必要液量 (検体+試薬) は 150 μ L であり、物理的凝固点検出法の場合は 75 μ L となる。COAGTRON-180 の処理速度は PT 単独測定時 180 テスト/時間 PT/APTT 同時測定時 120 テスト/時間であり PT の最短測定時間 (ファーストリザルト) は 3 分以内であり、また必要設置面積は 71(H)X84(W)X68(D)、重量 65kg と非常にコンパクトでありオペレーションも至って簡単な機器となっており、通常のルーチン測定のみならず緊急検査機としても使用可能である。機器の紹介に合わせ、今回実際の使用経験に基づいた機器の特徴、使用感についてもご紹介させて頂く。

お問い合わせ先 協和メデックス株式会社 学術部

03-6219-7608

脂質検査の標準化 ―LDL-C を中心に―

櫻林郁之介 (自治医科大学名誉教授)

はじめに：脂質関係の臨床検査の標準化はアメリカの標準法を除いては語れない。総コレステロール、HDL-コレステロール (HDL-C)、LDL-コレステロール(LDL-C)、中性脂肪すべてそうである。この中、日本で1995年に画期的な方法が発明された。すなわち HDL-C および LDL-C のホモジニアス (直接) 法の登場である。自動分析装置で測定できるようになったことが引き金になり、世界中で販売されるようになった。しかも、異なる原理によるアッセイ系が時期を同じくして発表され製品化された。しかも、特定健診で採用された LDL-C も直接法であり、ますます標準化が必要である。

1) HDL-C、LDL-C の標準化：HDL-C には世界の標準ともいべき超遠心法、沈殿法(Heparin-Na-CaCl₂)と化学的コレステロール測定法を組み合わせた CDC 法と DCM 法 (Designated Comparison Method) がある。しかし、両法はコレステロール測定に自動分析装置とは全く相いれない Abel-Kendall (A-K 法) 法を採用しており、技術面からも時間的にも日常検査としては無理がある。また、LDL-C も HDL-C と同様類似の原理により、世界に先駆けてホモジニアス法が開発され、発表された。時を同じくして、日本の数社から原理が異なるキットが発売された。しかし、少しずつ値が異なることがわかり、標準化が必要となった。そこで、日本としては、日常検査の中で使用しえる「指定比較法」を開発しようと 2003 年から HDL-コレステロールについては DCM 法で用いている硫酸デキストランと MgCl₂ を組み合わせた沈殿法と酵素法によるコレステロール測定を作り上げた。LDL-C については CDC の標準法である β -Q 法で用いられているコレステロール測定はやはり A-K 法なので、硫酸デキストランと MgCl₂ を組み合わせた沈殿法と、酵素法によるコレステロール測定法の系の開発を行い、2009 年日本臨床化学会 (臨床化学 38(3):308,2009) で承認された。

2) アメリカとの共同作業：直接法の標準化をするためには CDC が世界の標準化の鍵をにぎっている以上、アメリカとの共同作業が不可欠である。幸いなことに、アメリカの脂質専門家にチャンネルを持つ中島克行氏 (大塚製薬) と CDC の日本におけるレファレンスラボの中村雅一氏 (大阪府立健康科学センター) が参加頂き、2004 年アメリカとの共同作業がスタートした。そして、さらに 2007 年から AACC (American Association of Clinical Chemistry) の LVDD (Lipid and Vascular Disease Division) の幹事に 3 人を入れて頂き、共同研究の形で 2009 年アメリカでデータ取りが行われ、AACC で合同発表された。また Dr.G Miller を筆頭者に論文が公表された (Clin Chem 56(6):977,2010)。この中で、遺伝的脂質異常症を含む脂質異常症を中心にして NIH で採血が行われ、8 社の試薬を用いて測定された。その結果、脂質異常のない検体では非常に精度よく測定できることがわかった。また、極端な低 LDL-C、低 HDL-C は測定に大きな誤差が生じる、TG 高値 (400mg/dl 以上) 症例では LDL-C 測定において低値を示す試薬があり各社のばらつきがある、などの指摘があった。

3) 日本動脈硬化学会の記者会見：2010 年 4 月 26 日日本動脈硬化学会の理事長、理事合計 4 名が記者会見を行い、2007 年に改訂された脂質異常症の診断ならびに動脈硬化性疾患の管理基準のガイドラインに盛り込まれている LDL-C の直接法はかならずしも精度のよい方法ばかりではないので、当面は F 式を用い、食後の受診者については空腹に再度採血すること、また、特定健診においては総コレステロールを新たに組み込むことを要望するなどの意見が述べられた。また、理事長は LDL-C の直接法に関しては精度がよくなれば全面的に採用することもありえるとの含みを持たせた。

4) 厚生労働省の対応：現在、厚生労働省は 12 種類の LDL-C 直接法の試薬を認可しているが、この標準化を行う為に日本動脈硬化学会と日本臨床検査薬協会に要請して試薬標準化のための委員会を発足させ、今年度中に結論を出すこととなり、8 月初旬に初会合が開かれた。

ランチョンセミナー 4 <オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社>

11月28日(日) 12:15~13:15 (第4会場 4階・市民ホール404)

輸血のオーダーリング・電子カルテ導入に伴う基礎知識

本山 史朗 (オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社)

平成15年の改正薬事法および血液新法により、安全かつ適正な輸血医療を推進するように医療機関の責務が明確化され、医療機関での輸血医療の質の向上が要求されることとなりました。また平成18年の診療報酬改定により、適正輸血の実施や輸血検査の24時間体制の構築等、医療機関における輸血管理体制を評価する輸血管理料が導入されました。このように、近年、輸血療法及び輸血検査を取り巻く環境に大きな変化が見られ、輸血業務の実施現場においても、これらの変化に対する取り組みが求められています。

安全かつ適正な輸血医療を推進していくためには、どのような取り組みが必要なのでしょうか。採血時の患者検体取り間違い、血液型判定や入力ミス、出庫時の製剤の取り間違い、血液製剤の持ち込み照合ミス、病棟や手術室での患者取り間違いや血液製剤の取り違いなど、日常のインシデント・アクシデントを防止して、安全性を確保する仕組みや体制の構築とその運用の重要性がますます増大してきております。

検査室に関わるインシデント・アクシデントの防止には、全自動輸血検査装置が貢献する部分は大きいと考えられていますが、ただ全自動機器を設置しただけでは輸血の安全性は確保出来ません。中央検査部システムとの連携はもちろんのこと、輸血オーダーリングシステムとの連携や、電子カルテとの連携といった、病院全体のシステムの中に組み込むことが必要であり、この事が安全な輸血検査や輸血療法の確立に結び付きます。しかしながら、システムの連携が複雑であるため、私たちが知っておかなければならない知識が多く、これらを知らなかったために思ったようなシステム構築が出来なかったという事例が多く発生しています。

本セミナーでは、このような事例が皆さまの施設で起きないようにするための事前知識として、事前にどのような事を知っておけばいいのか、知っておかなければならないのかをご紹介します。

- ① 輸血製剤のオーダーリングと、電子カルテの違い
- ② 輸血検査における検体検査オーダーリング構築の例と注意点
- ③ 同種血液製剤オーダーリング構築の例と注意点
- ④ 自己血貯血オーダーリング構築の例と注意点
- ⑤ 分画製剤オーダーリング構築の例と注意点
- ⑥ 電子カルテ導入時によくある落とし穴
- ⑦ システム化の前に

連絡先： オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-5-2 千代田ファーストビル
お客様サポートセンター TEL0120-03-6527

呼吸器感染症の新たな遺伝子検査法

高野 弘 (栄研化学株式会社 市場対策室 LAMP 推進部)

1980年代に遺伝子増幅法である PCR 法が開発されて以来、遺伝子検査はその高い感度と特異性から、感染症の診断を中心に利用されるようになった。さらに SARS コロナウイルスや新型インフルエンザウイルスのような新興あるいは再興感染症の出現により、遺伝子検査の重要性は増している。また起因微生物の種類が多い呼吸器感染症においては、分離培養が困難、あるいは培養に時間を要する場合、起因微生物の鑑別のために遺伝子検査が有用であると考えられている。しかし、遺伝子検査は、検体からの核酸の抽出、遺伝子増幅、及び検出の複数の工程を経ねばならず、さらに各工程で高度なスキルと高価な装置や設備が必要であり、未だに簡便にどこでも検査を実施するには難がある。そこで我々は迅速性、簡便性、高特異性を併せ持つ新規遺伝子増幅法 Loop-mediated isothermal amplification(LAMP)法を開発し、従来遺伝子検査が実施できなかった検査環境でも使用可能な試薬の開発を目指してきた。本演題では、呼吸器感染症における遺伝子検査の有用性ととも、LAMP 法を用いた遺伝子検査の簡略化の取り組みについても紹介したい。

LAMP (Loop-mediated isothermal amplification) 法は、6つの領域を含む4種類のプライマーを用いて鎖置換型の DNA polymerase、ターゲット DNA を混合して等温で反応させると、幾つかの反応ステップを踏んで、両方の末端でループをまいたダンベル様構造をした一本鎖 DNA が生成される。このダンベル様構造の DNA を起点として増幅サイクリング反応が起こる。増幅反応は等温で連続的に進む。(詳細は <http://loopamp.eiken.co.jp> を参照)

呼吸器感染症は起因微生物の種類が多く、その診断には分離培養、血清診断、特異抗原検出などの種々の検査手法が利用されてきている。しかし、これら従来法のみではいくつかの課題があり、遺伝子検査法は、高感度、特異的な迅速診断法として期待された。呼吸器感染症は遺伝子検査法の適応と考えられても実際に臨床現場で利用できる体外診断用医薬品として承認された遺伝子検査試薬キットは少なく、また、迅速診断とはいえ 2~3 時間を要する、あるいは核酸抽出等の前処理に時間を要する等課題は少なくない。そこで、我々は分離培養に時間を要する *Mycoplasma pneumoniae*、常在菌の汚染度が高いと分離が難しい *Legionella* 属、最近世界的に流行した H1pdm2009 インフルエンザウイルス、病原性が高く、培養に時間がかかる結核などについて、呼吸器感染症における遺伝子検査法の課題を解決し臨床現場に貢献できるよう、LAMP 法を用いて、新たな遺伝子検査試薬キットを開発した。前処理の簡易化を含めて、この新たな遺伝子検査手法を紹介したい。

ランチョンセミナー 6 <シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社>

11月28日(日) 12:15~13:15 (第6会場 6階・603会議室)

乳癌診療の最前線

大崎 昭彦 (埼玉医科大学 乳腺腫瘍科 准教授)

わが国の乳癌の罹患率は現在も増え続けており、最近の統計では生涯のうちに18.5人に1人の女性が乳癌に罹患するといわれている。わが国における乳癌の好発年齢は欧米と異なり40歳代後半から50歳代前半の働き盛りにあることから大きな社会問題になっている。乳癌はホルモン依存性腫瘍の代表であり、その増殖に女性ホルモンであるエストロゲンが強く関わっている。生活様式の欧米化や女性の社会進出が進みエストロゲンが長期に働く環境が増えることで乳癌のハイリスクグループに属する女性が増加している。乳癌の治療は局所療法である手術療法と放射線療法、全身療法である薬物療法を組み合わせる集学的治療が行われる。手術では縮小手術が主流となり乳房温存術に加え、センチネルリンパ節生検が普及し、2010年4月から保険承認され標準的治療として認められた。乳房温存術は、今や早期乳癌の標準的手術として定着し全国平均で約60%の患者に施行されている。乳房温存術後には原則として温存された乳房に対して50~60Gyの放射線照射が行われる。センチネルリンパ節の同定には色素法とRI法(γプローブ法)の併用が推奨されているが、それに加えてリンパ管とリンパ節を描出する方法として3D-CTLGやSPECT-CTなどの新しいモダリティも実地臨床で応用されている。薬物療法の治療方針を決定するには、乳癌そのものの性質を知るためにバイオマーカーであるエストロゲン受容体(ER)、プロゲステロン受容体(PgR)、HER2発現の有無をみるのが極めて重要である。術後補助療法を決定するにはまず、ホルモン療法の感受性(反応性)をみることから始め、続いて再発のリスクにより化学療法の有無が決定され、HER2陽性乳癌には抗HER2療法(トラスツズマブ)が上乘せされる。一時期の米国における化学療法重視の治療の反省から副作用の強い化学療法は適応を厳密にする必要があると考えられ、ベネフィットの少ない患者にはできるだけ化学療法は避ける方向にある。その対象患者を選択するために分子生物学的手法を用いたOncotypeDX®やMammaPrint®などの予後予測ツールが登場してきた。乳癌の分子標的薬はHER2陽性乳癌に対するトラスツズマブの成功により次々に開発が進められている。製剤としては抗体療法に代表される高分子化合物と低分子化合物のに分けられるが、分子標的により、トラスツズマブのように上皮増殖因子受容体をターゲットにし特定のサブタイプに対して作用する薬剤のほか、血管新生阻害薬のように乳癌の全てのサブタイプに効く可能性のある腫瘍の微小環境をターゲットにした薬剤、細胞内の特定のシグナル伝達経路を阻害する薬剤、DNA修復に関連した薬剤など作用点の異なる薬剤が開発されている。最後にわが国の乳癌検診の現状について紹介する。欧米では早くから行われていたスクリーニングマンモグラフィはわが国でも2005年より導入されたが、乳癌検診の受診率は依然として低く、各方面で啓蒙活動が積極的に展開されている。がん対策基本法ではマンモグラフィ検診受診率50%達成と死亡率20%減少を目標に掲げており、受診率の向上に向けて検診を行う側と受ける側の双方で意識を高める必要がある。

第47回関東甲信地区医学検査学会 実行委員名簿

役 職	氏 名	施 設 名
学 会 長	砂川 進	越谷市立病院
実行委員長	神山 清志	浦和医師会メディカルセンター
副実行委員長	津田聡一郎	株式会社ビー・エム・エル総合研究所
副実行委員長	岡田 茂治	埼玉県立がんセンター
事務局 長	前原 光江	埼玉社会保険病院
事務局次長	麻生富美枝	東松山市立市民病院
事務局次長	小松 正人	さいたま赤十字病院
会 計 部 長	島村 益広	埼玉県赤十字血液センター
会 計 副 部 長	松岡 優	埼玉医科大学病院
総 務 部 長	矢作 強志	川口市立医療センター
総 務 副 部 長	中村 道子	東松山医師会病院 臨床検査センター
渉 外 部 長	室谷 孝志	埼玉医科大学総合医療センター
渉 外 副 部 長	林 一成	東武医学技術専門学校
展 示 部 長	小関 紀之	獨協医科大学越谷病院
展 示 副 部 長	荒船 雅晴	秩父市立病院
会 場 部 長	多田 三男	埼玉県立循環器・呼吸器病センター
会 場 副 部 長	手塚 康晴	さいたま市立病院
学 術 部 長	高嶋 浩一	自治医科大学附属さいたま医療センター
学 術 副 部 長	飯田眞佐栄	上尾中央臨床検査研究所
学 術 副 部 長	山口 純也	済生会川口総合病院